

3-4. 遺構表現

3-4-1. 遺構表現計画

発掘調査により、人が定住した痕跡が大きく次の2個所発見されている。

古い痕跡は15号住居跡を伴う厚手爪形文土器（BP11, 200）が出土する土器集中部C・Bであり、新しい痕跡は11号住居跡他を伴う薄手爪形文・多縄文系土器（BP10, 110）が出土する土器集中部A・D周辺である。

これらの範囲は、人の長時間の活動を想定し得るので、土器分布範囲を土面（舗装）として表現する。

整備では、新しい痕跡の11号住居跡の復元を遺構表現の中心として、同時に存在しなかった他の住居跡は痕跡として表示する。また土坑についても重複するものは誤解を招かないよう整理して、より実態に近い形で表現する。

また、発掘調査時の状況や遺物等については解説板で補う。尚、各種の整備構造物等は特に遺跡景観に配慮したものとする。

縄文時代草創期の遺構概要と整備方法

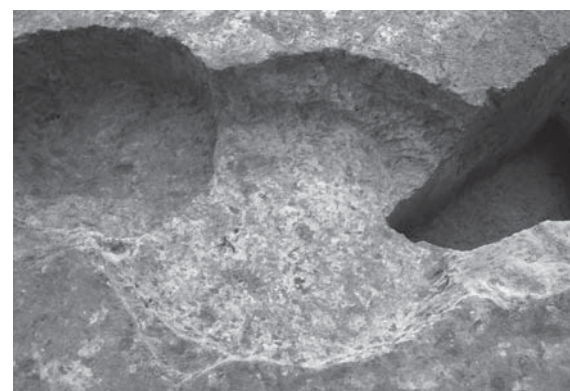
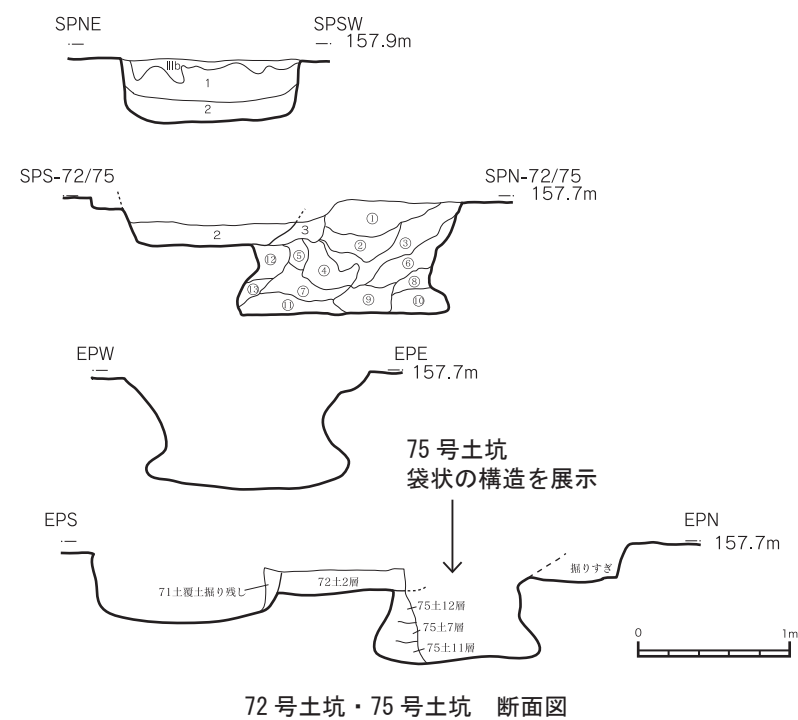
| 遺 構     | 概 要                                                                                                                                                                    | 整備方法                                                |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 土器集中部A  | 多縄文系土器750点以上出土。<br>薄手爪形文土器が少数あるが、厚さ、胎土、色調、羽状の模様構成に多縄文系と共通性がある。<br>「ハ」字状爪形文は確認されない。                                                                                     | ・主な分布範囲を土系舗装により表示<br>・土器の出土状況や遺物拡大写真等をタイルに転写して展示    |
| 土器集中部B  | 厚手爪形文土器200点以上出土。<br>集中の核は1箇所で数固体の土器からなる。<br>斜位の爪形文が横走するものが多い。<br>粘土紐の積み上げ部周辺に「ハ」字状爪形文を持つものあり。<br>当該期の可能性がある石鏃2点出土。                                                     | ・主な分布範囲を土系舗装により表示<br>・土器・石鏃の出土状況や遺物拡大写真等をタイルに転写して展示 |
| 土器集中部C  | 厚手爪形文土器450点以上出土。<br>2～3箇所の集中の核。<br>斜位の爪形文が横走するものが多い。<br>粘土紐の接合部分に逆「ハ」字状爪形文を持つもの<br>縄文草創期に特徴的な長脚鏃が50点以上出土。                                                              | ・主な分布範囲を土系舗装により表示<br>・土器・石鏃の出土状況や遺物拡大写真等をタイルに転写して展示 |
| 15号住居跡  | 楕円形、掘り鉢状に窪む。<br>3.2m×2.9m、深さ0.2m<br>床面に11箇所のピット。径10cm前後、深さ15cm前後、遺構北西の立上り付近に弧状に配置、住居跡に伴う可能性あり。<br>時期の異なる柱穴状遺構が2箇所、覆土を切る。<br>厚手爪形文土器、条痕文土器、剥片<br>遺物からは、縄文時代草創期を含む時期となる。 | ・窪みにより、痕跡として表現<br>・解説板で補足説明                         |
| (66号土坑) | 不正楕円形、平底<br>250cm×200cm、深さ20cm<br>厚手爪形文土器、剥片。<br>70号土坑と重複関係にある。<br>木の根痕など古い土壌攪乱の可能性もある。                                                                                | ・重複する70号土坑を優先し、解説板のみの表示                             |
| 70号土坑   | 円形、平底<br>100cm×100cm、深さ30cm<br>厚手爪形文土器(5片)、長脚鏃(1)                                                                                                                      | ・窪みにより、痕跡として表現<br>・解説板で補足説明                         |
| (65号土坑) | 円形、平底<br>110cm×110cm、深さ40cm<br>厚手爪形文土器(2片、同一固体)、剥片(1、高い位<br>覆土に多量の炭化物を含む。<br>75号土坑と重複し、65号土坑が新しい。                                                                      | ・重複する75号土坑を優先し、解説板のみの表示                             |
| (71号土坑) | 楕円形、平底<br>120cm×100cm、深さ30cm<br>厚手爪形文土器、石鏃、剥片、焼礫、炭化堅果類<br>覆土中に炭化物・焼土多数。<br>意図的に埋められた。<br>72号土坑と重複し、71号土坑が新しい。                                                          | ・重複する75号土坑を優先し、解説板のみの表示                             |

| 遺 構               | 概 要                                                                                                              | 整備方法                            |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| (72号土坑)           | 円形、平底<br>140cm×140cm、深さ35cm<br>遺物無し<br>71号土坑、75号土坑と切り合う。<br>71号、72号、75号の順に新しい。                                   | ・重複する75号土坑を優先し、解説板のみの表示         |
| 【75号土坑】<br>構造を展示  | 円形、平底、底面が広がる袋状土坑<br><br>140cm×140cm、深さ90cm<br>厚手爪形文土器(2片)、炭化堅果類(1)<br>意図的に埋められた。<br>65号土坑、72号土坑と切り合い、75号土坑が最も古い。 | ・袋状土坑の構造を復元的に展示<br>・安全策として蓋を設ける |
| 74号土坑             | 円形、平底<br>100cm×100cm、深さ30cm<br>爪形文土器(2片)、無文の土器片(1)、長脚鏃(1)<br>覆土に70・71・72と同様に白色パミスを含み、縄文時代草創期の可能性あり。              | ・窪みにより、痕跡として表現                  |
| 67号土坑             | 円形、平底<br>170cm×170cm、深さ70cm<br>爪形文土器(1)、剥片(1)<br>縄文前期の遺構69号と切り合い、67号が古い。<br>縄文草創期から前期末葉までの可能性あり。                 | ・窪みにより、痕跡として表現                  |
| 68号土坑             | 楕円形、平底<br>160cm×140cm、深さ35cm<br>縄文早期～前期の土器(6点)、厚手爪形文土器(3点)、その他時小片(2点)、石鏃(2点)、礫(1点)<br>縄文草創期から前期末葉までの可能性あり。       | ・窪みにより、痕跡として表現                  |
| 83号土坑             | 円形、平底<br>80cm×80cm、深さ35cm<br>無文の土器片(1点)<br>覆土に70・71・72と同様に白色パミスを含み、縄文時代草創期の可能性あり。                                | ・窪みにより、痕跡として表現                  |
| 土器集中部<br>(7号住居跡)  | 不正隅丸方形、掘り鉢状に窪む。<br>4.5m×4.0m、深さ0.25m<br>柱穴・炉穴は検出されず。<br>土器・石器・礫が出土。<br>11号住居ときり合い、11号住居が新しい。                     | ・重複する11号住居跡を優先し、解説板のみの表現        |
| 【11号住居跡】<br>構造を展示 | 楕円形、掘り鉢状に窪む。<br>3.8m×3.2m、深さ0.25m<br>柱穴・炉穴は検出されず。<br>土器・石器・礫が出土。<br>覆土下位に流れ込みによる焼土ブロックあり。                        | ・復元検討のうえ、住居の上部構造を復元展示           |
| 57号土坑a            | 不正隅丸方形・平底。<br>170cm×140cm、深さ30cm<br>薄手爪形文土器、多縄文系土器、剥片、礫片。<br>土坑底面に円形のしみ(57号土坑b)検出。<br>57-bは先行する遺構。               | ・窪みにより、痕跡として表現                  |
| 【8号集石】<br>構造を展示   | 直径50cm程度の範囲に8点以上の石材。<br>石材は多孔質の輝石安山岩製の磨石状。<br>掘り込みの有無は不明。                                                        | ・集石の状況を復元的に展示<br>・解説板で補足説明      |
| 9号住居跡             | 楕円形平面<br>3.8m×3.1m<br>縄文時代草創期の可能性あり                                                                              | ・窪みにより、痕跡として表現                  |
| 13号住居跡            | 楕円形平面<br>3.7m×3.0m<br>縄文時代草創期の可能性あり                                                                              | ・窪みにより、痕跡として表現                  |

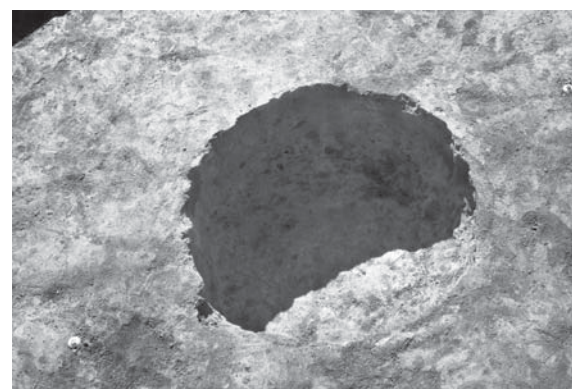
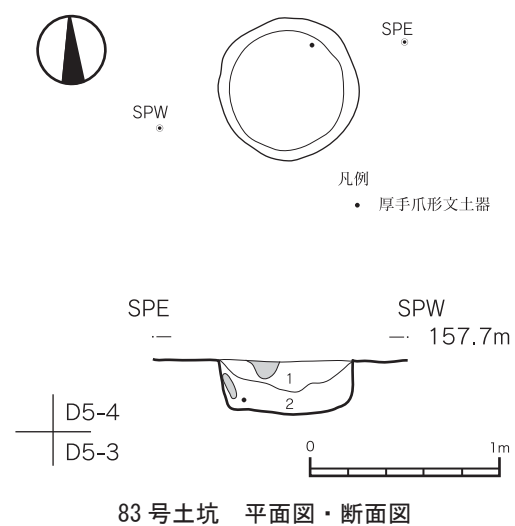




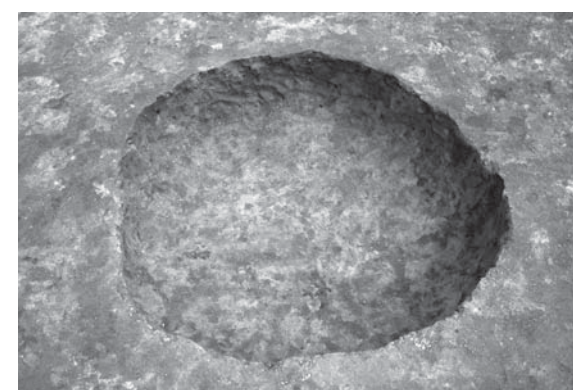
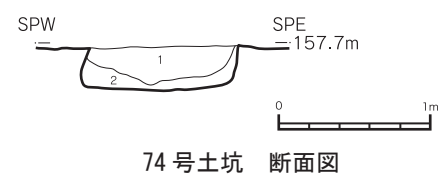
75 号土坑



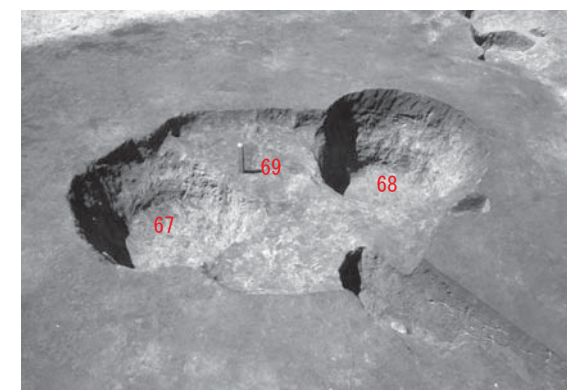
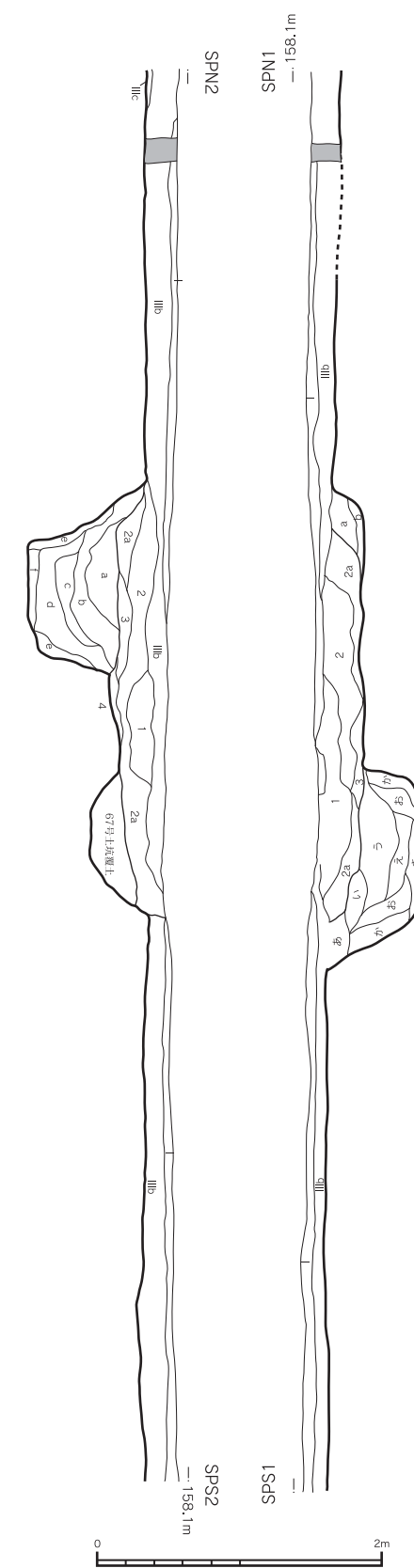
83 号土坑



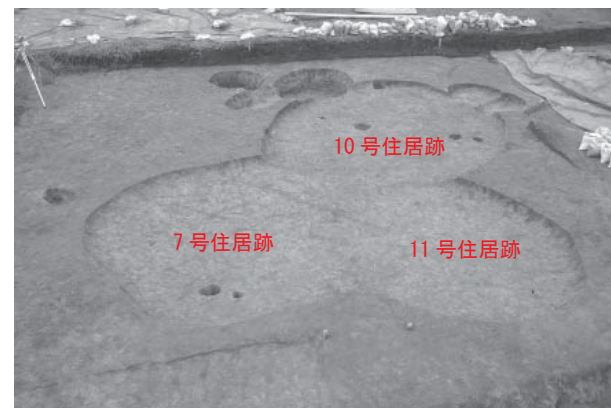
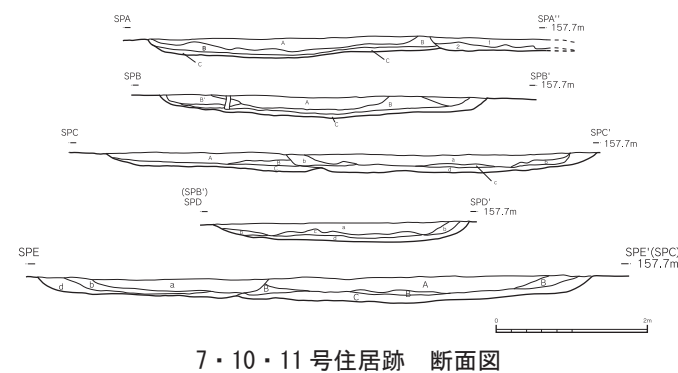
74 号土坑



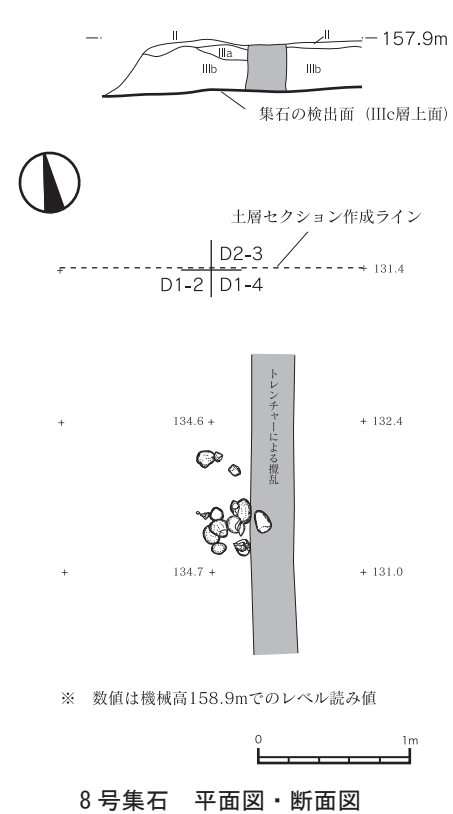
## 67 号土坑 · 68 号土坑



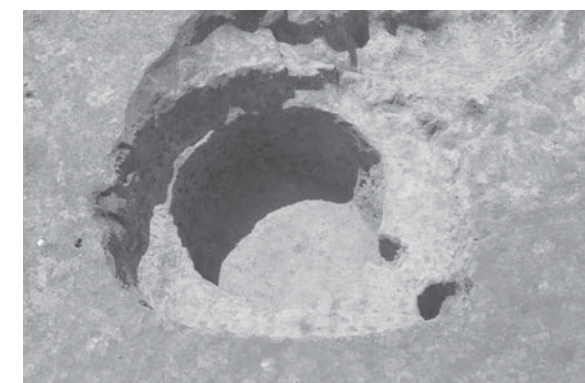
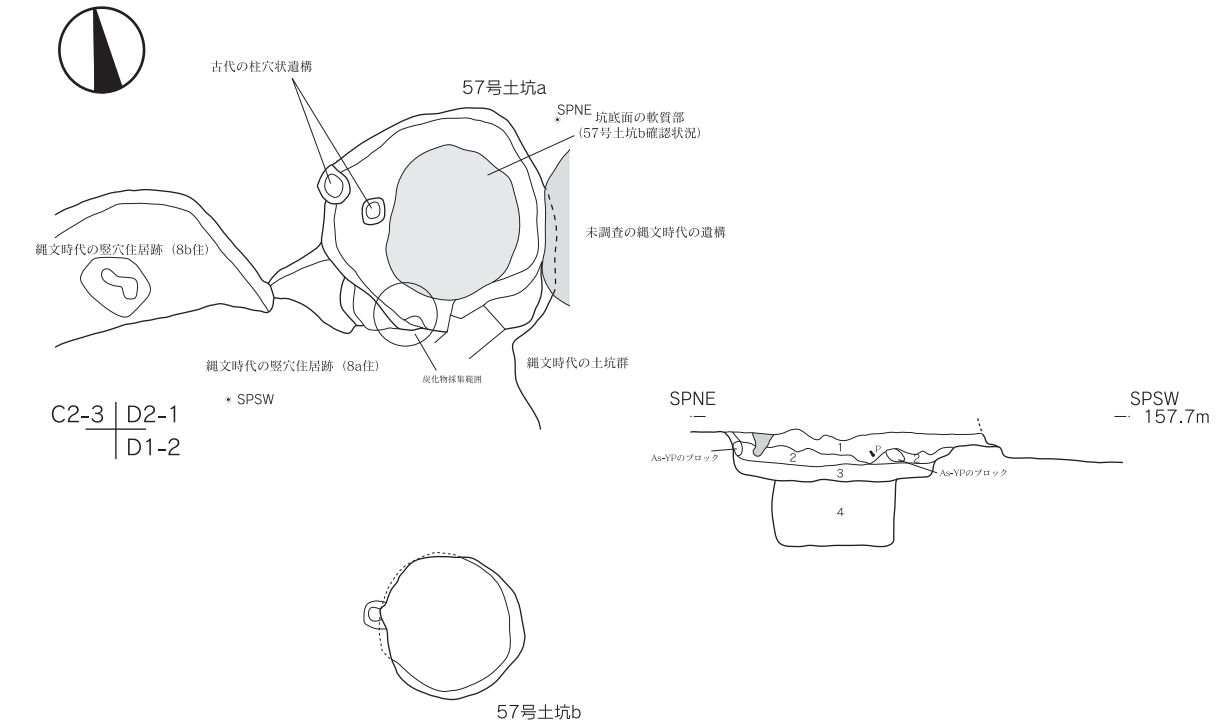
# 11号住居跡



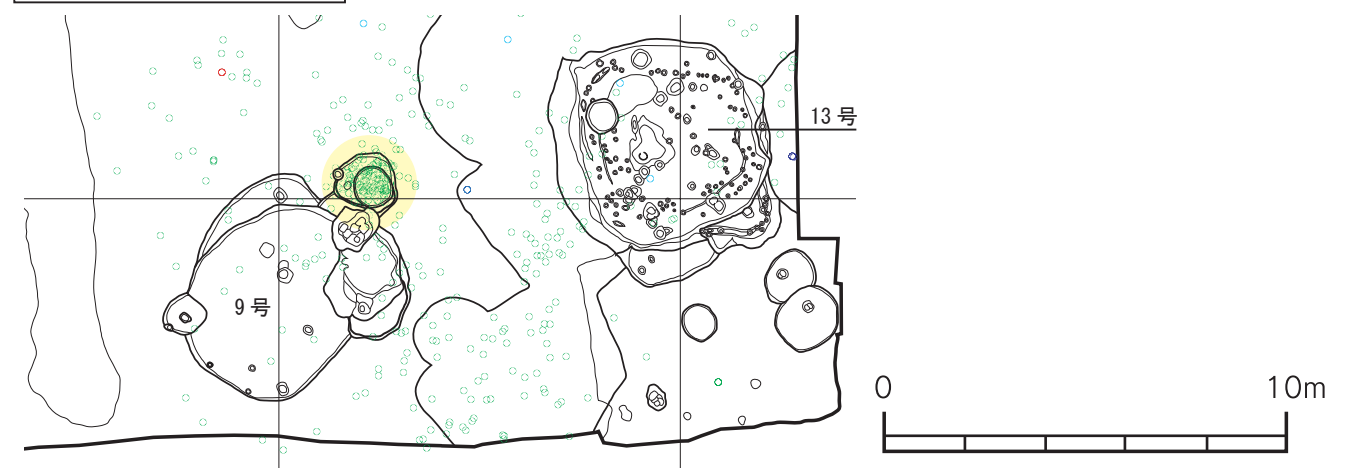
# 8号集石

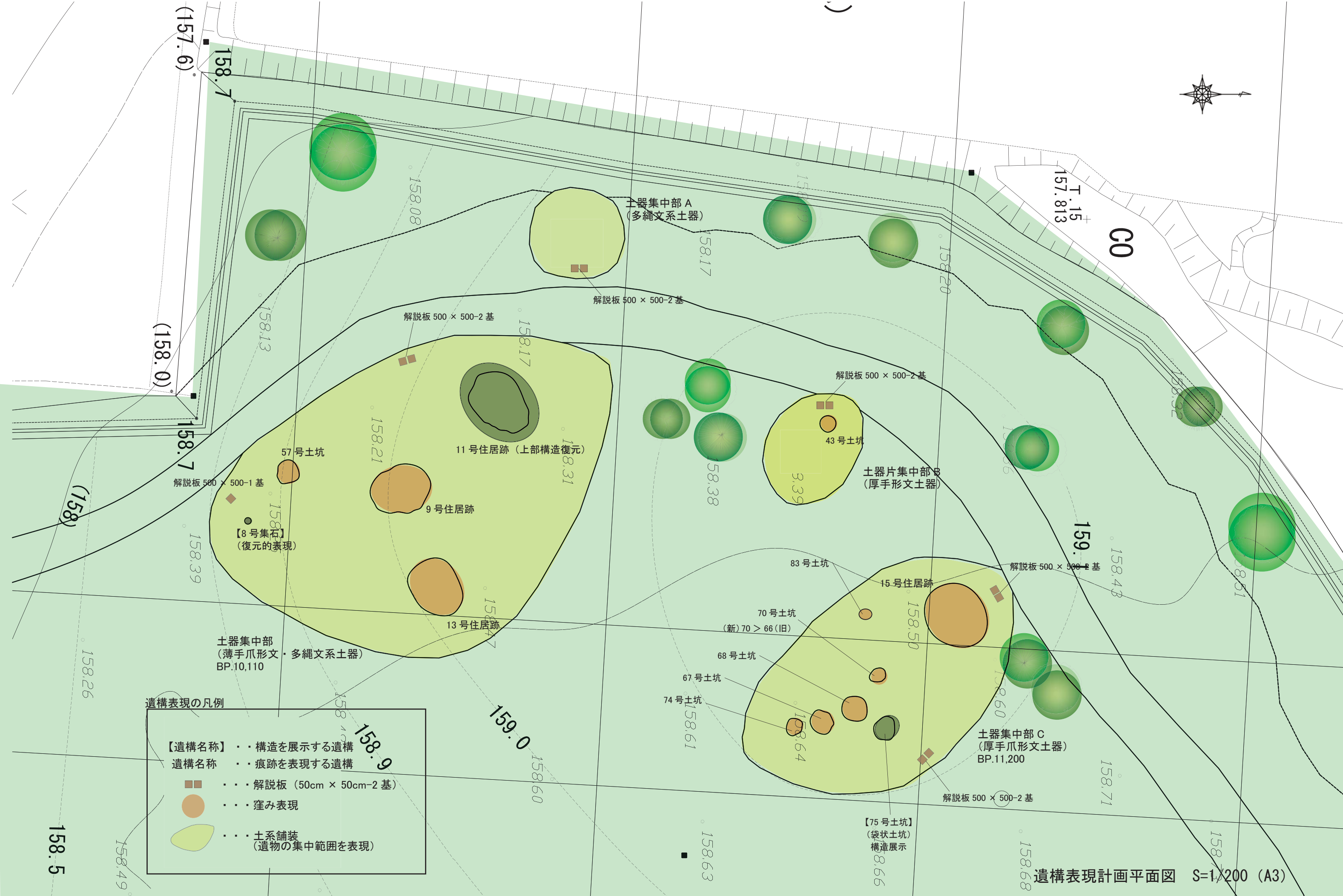


# 57号土坑



# 9号住居跡・13号住居跡





3-4-2. 11 号住居跡の復元考察

1) 遺 構

① 遺構の状況

検出遺構 不整楕円形 長軸 3.8m、短軸 3.2m、確認面からの深さ 0.25m、  
挿鉢状に掘り窪む。

長軸方位 北東―西南

床 面 本遺構に伴うと考えられる柱穴、炉は検出されず。

遺 物 縄文時代の土器・石器・礫が出土。

覆土下位に流れ込みによる焼土ブロックが存在した。

その他 北側に7号住居跡（縄文草創期）、東側に10号住居跡（縄文早期）  
と切り合う。

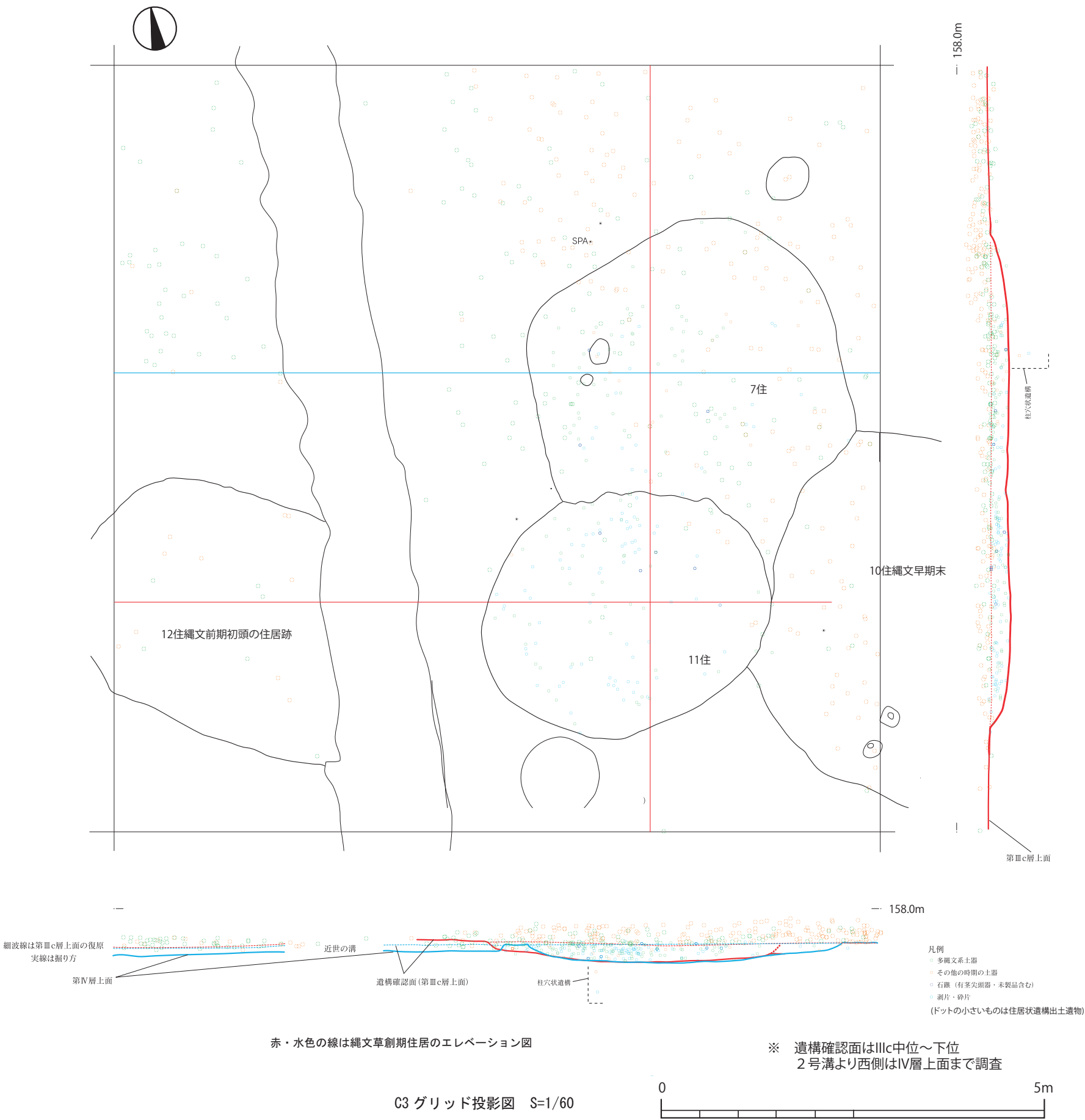
② 遺構の考察

周囲の地盤面

右図には、草創期の遺物と草創期以外の土器片の分布状況、また遺構の構築  
示す。遺構の構築面は、次の事項より遺構確認面≒基本土層Ⅲc層上面に近  
似すると考えられる。周囲の地盤はほぼ平坦ではあるが、南西側が数センチ  
高い。

根 拠

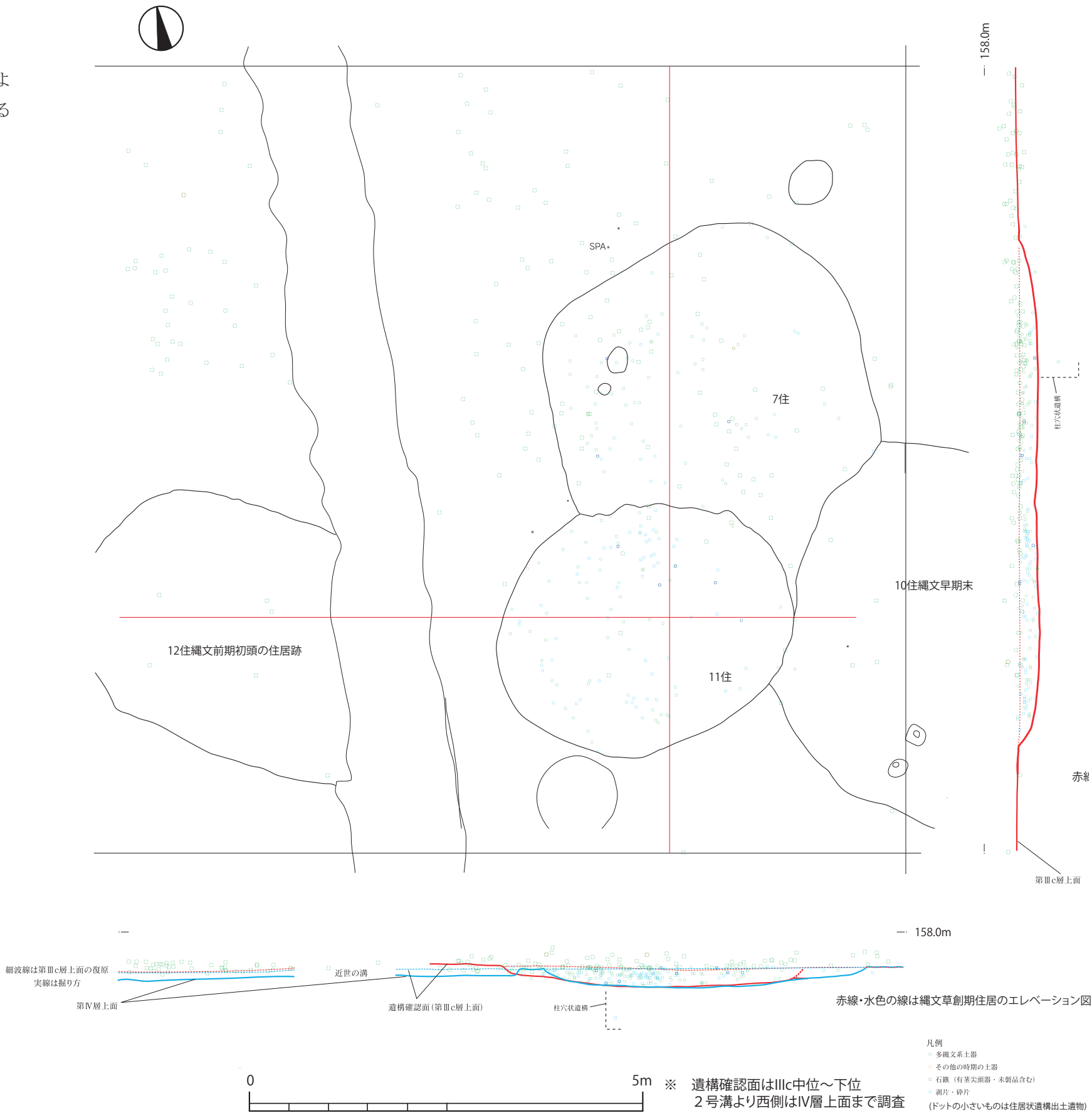
- ① この深度で遺構が確認されたこと。
- ② 縄文時代の土器はⅢc層中から出土しないこと。
- ③ 本図に示したように、遺物の垂直分布がⅢc層上面で途切れること。
- ④ 掘り込みの認められない草創期の遺構である8号集石においても遺  
構の確認面がⅢc層の上面にあること。



2) 遺物の分布

本図では草創期の遺物と遺構との平面・垂直分布を示している。図のように、遺物の分不状況は遺構の床面に一様ではなく主に南西半に分布するという偏りがある。その可能性として次が考えられる。

- ① 遺構の埋まった痕跡に重なるように遺物の集中が生じた可能性がある。
- ② 偏りが例えば入口の位置など、住居構造に係る可能性がある。
- ③ あるいは、居住における屋内の使い分けに起因する可能性もある。



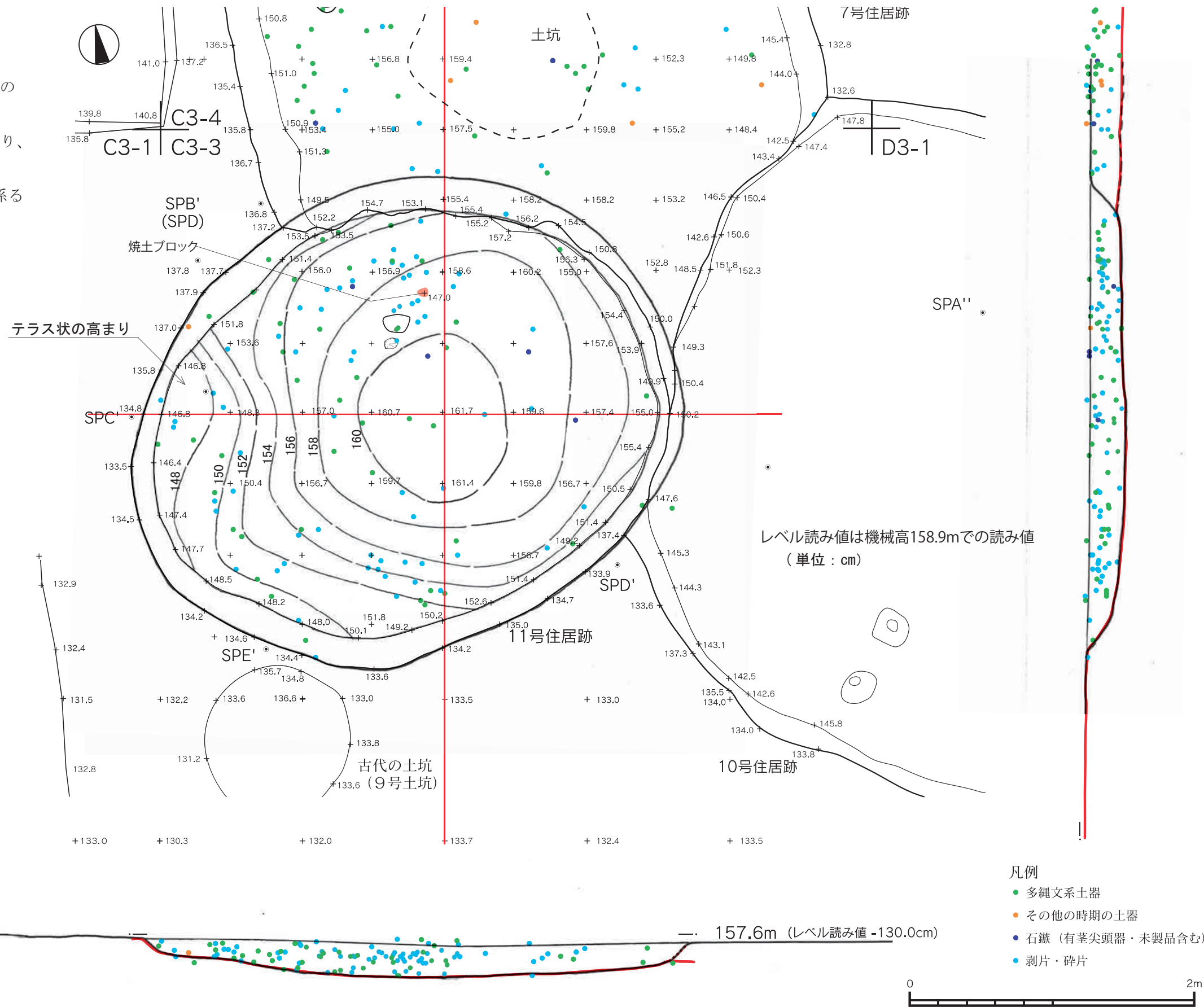
C3 グリッド投影図(縄文草創期の遺構・遺物のみ) S=1/60

3) 床面の凹凸

発掘調査時のレベル読み取り値から、2cm 間隔の等高線を作図した。

中央付近が最も低いが、南西側が勾配が緩くなり、西辺の一角にはテラス状の高まりがある。

上記の遺物の分布状況とともに、住居構造に係る可能性がある。



遺構復元図 S=1/30

4) 縄文時代草創期の住居跡

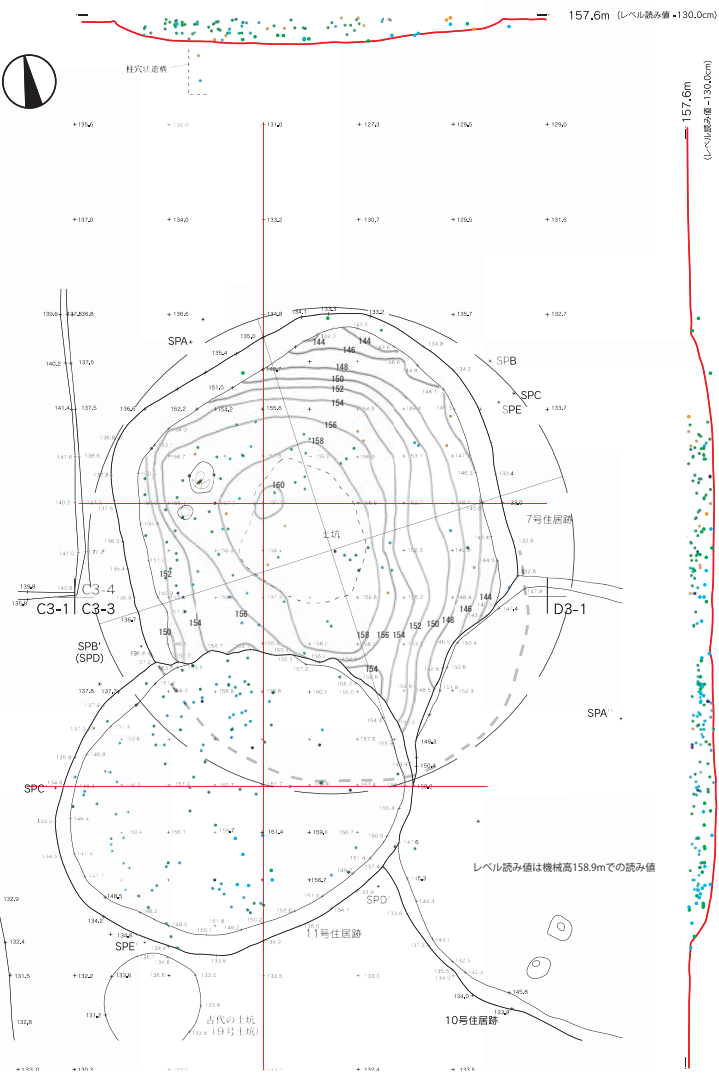
本遺跡の縄文時代草創期の住居跡について、11 号住居跡と同様に床面の等高線図を作成した。その結果、11 号のように床面の片側に緩傾斜を持つものは見られなかった。

7 号住居跡

時 期 BP10, 110 薄手爪形文・多縄文系土器

平面形状 不正楕円形 長軸：推定 5.2m（北－南）  
短軸：4.0m 長軸／短軸：1.3

床面形状 播鉢状に窪み、底面はやや北西にずれる。  
東半は緩やかな傾斜を持つ。

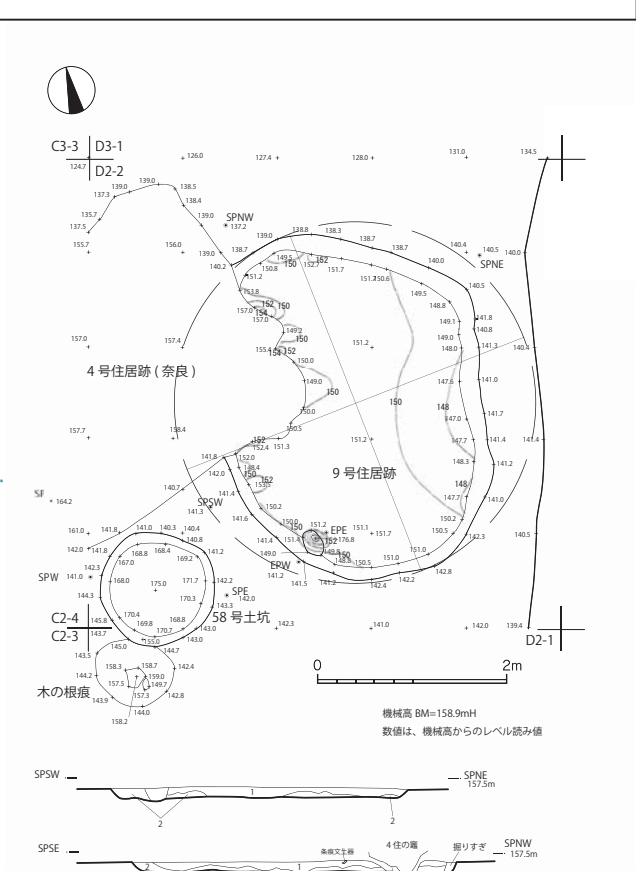


9 号住居跡

時 期 BP10, 110 薄手爪形文・多縄文系土器

平面形状 不正楕円形 長軸：3.8m（北－南）  
短軸：2.8m 長軸／短軸：1.36  
東側は凸状に広がる。

床面形状 レベル測点が少ないが、ほぼ平坦と思  
われる。  
東側に僅かな傾斜を持つ。

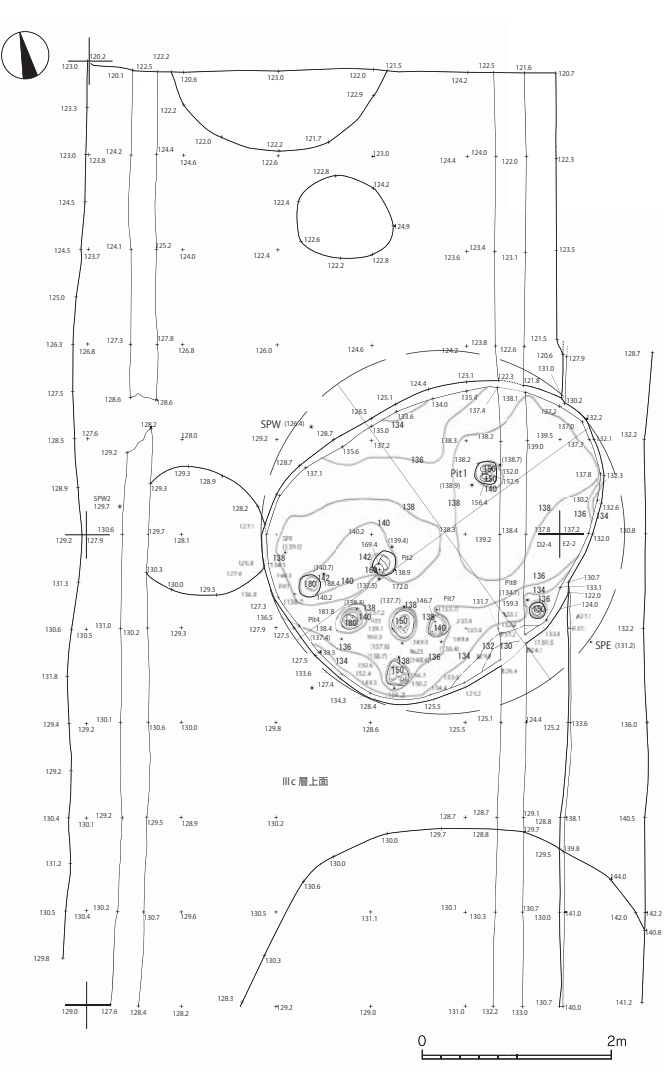


13 号住居跡

時 期 BP10, 110 薄手爪形文・多縄文系土器

平面形状 不正楕円形 長軸：3.8m（東－西）  
短軸：3.0m 長軸／短軸：1.27  
東半は西半に比べ広い。

床面形状 ほぼ平坦であるが、南壁際に僅かな傾斜  
を持つ。



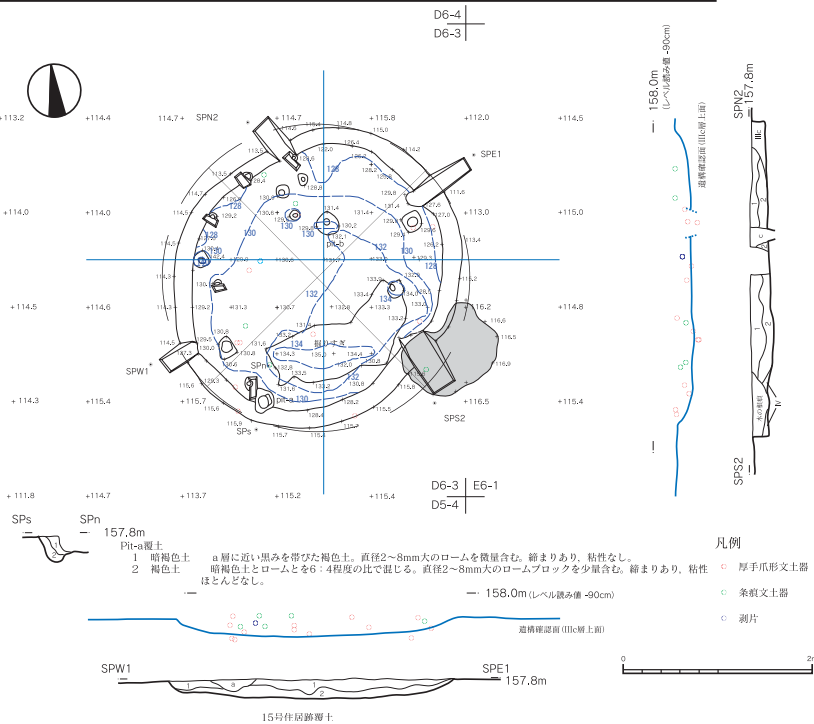
15 号住居跡

時 期 BP11, 200 厚手爪形文土器

平面形状 正円に近い楕円形 長軸：3.2m（北－南）  
短軸：2.8m 長軸／短軸：1.14

床面形状 ほぼ平坦である。

柱 穴 床面に支柱や垂木跡の可能性のあるピットが  
複数ある。  
直径 10cm 前後、深さ 15cm 前後のピットが  
10 箇所ほど、壁際に弧状に配置する。図中、  
pit-a・b は時期が異なる。



5) 11 号住居の復元案

①検討方針

縄文時代草創期（BP10, 110）の遺構遺物集中区において、継続的に4棟作り替えられた住居のひとつであり、地面を掘り込んでいることから、移動する仮小屋のようなものではなく定住のための住居と判断される。

縄文時代草創期の住居のあり方として、移動採集から定住に至る過程の過渡的な構造を表現する。移動採集民の住居は、北方アジア諸民族にみられるように、平地にテント式小屋組を建て、樹皮や獣皮で覆う構造と考えられている。本遺跡の縄文時代草創期の住居跡は浅い掘り鉢状の竪穴であり、縄文時代中期以降に見られるような垂直壁で深い竪穴とは様相が異なる。

上部構造においても中期以降に想定されるようなものではなく、さらに初源的なテント構造を基本とすることが妥当と考えられる。

②周堤

楕円形の掘り込み周囲に、掘削した土を用いた周堤を想定する。

周堤は、縄文・弥生以降の多くの住居跡から発見されている。

床面の掘り込みに加えて周堤を設けることで、垂木の固定や雨仕舞いを良好にする工夫と考えられる。

掘削土量は約2.0 m<sup>3</sup>であり、周堤はこれを超えない土量に設定する。

③出入口

住居床面が浅くなる方向で、冬季の強い季節風（からっ風）を避けた南辺方向に設定した。屋根面にそのまま開口を設け、開閉装置は屋根葺き材の獣皮を兼ねるものとする。

④小屋組検討

本遺跡で発見された5棟の縄文時代草創期の住居跡との比較検討や、北方アジア民族に見られる住居構造との類似性等から、床面に主柱を持たないテント構造を基本として小屋組模型による検討を行い、復元構造を決定した。

尚、この検討は整備委員会の浅川滋男先生の指導の下に行なった。

⑤屋根材

垂木上に横小舞（粗朶）を架け、樹皮を下葺きとし、その上を獣皮で覆う。出入口は獣皮で開閉する。整備上、獣皮と樹皮の間に透湿性防水シート（ゴアテックスシート t0.5mm）を敷設する。

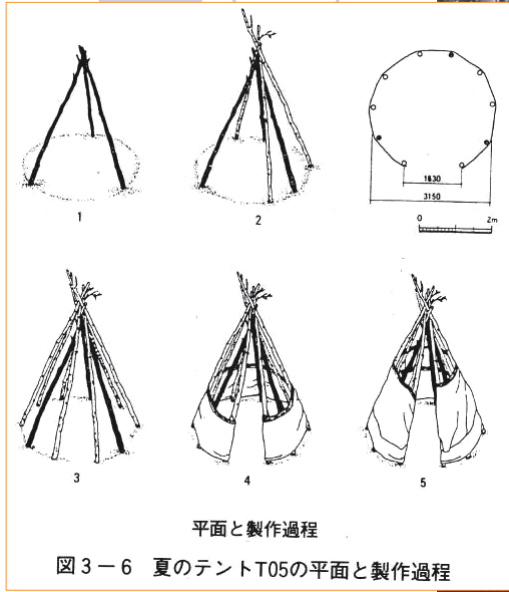
また、北方民族に倣って獣皮の上に押さえ丸太を置くことも考えられる。

⑥屋内装置

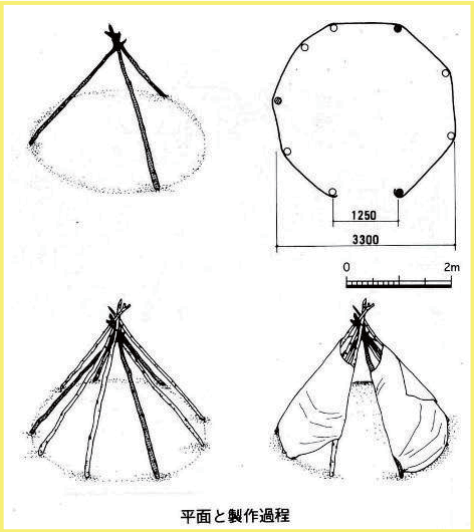
- a. 敷物
- 本住居跡の遺物が疎らな範囲は、掘り鉢状の掘り込みの底にあたる。遺物が疎らな要因として、例えば毛皮等の敷物があり、住居廃絶時に取り除いたとも想像される。
- その場合、この掘鉢底が寝床等に用いられた範囲とも思われる。
- b. 炉
- 床面中央やや北寄りに焼土ブロックが発見されている。
- 流れ込みによるとされるので当該位置ではないとしても、この付近の屋内、あるいは屋外に炉があったことも考えられる。

北方民族のテント構造住居の例（黒龍江省・オロチョン族）

小興安嶺(黒龍江省)オロチョン族  
夏の「仙人柱(アガ)」作り



小興安嶺オロチョン族 冬の「仙人柱」作り



資料提供 浅川滋男（鳥取環境大学）

北方民族のテント構造住居（樹皮・獣皮の屋根）の例



マンシ人 白樺の表皮で覆われた円錐形の小屋



ハントウイ人 白樺の表皮で覆われた円錐形の小屋



ドルガン人 円錐形の小屋



エヴェンク人 トナカイのスウェードで作られた屋根を持つ円錐形の小屋



ケート人 円錐形の小屋



ハントウイ人 動物の表皮で覆われた円錐形の小屋



テレンギト人 フェルトで覆われた円錐形の小屋



トゥヴァ人 円錐形の小屋



セクリープ人 円錐形の小屋

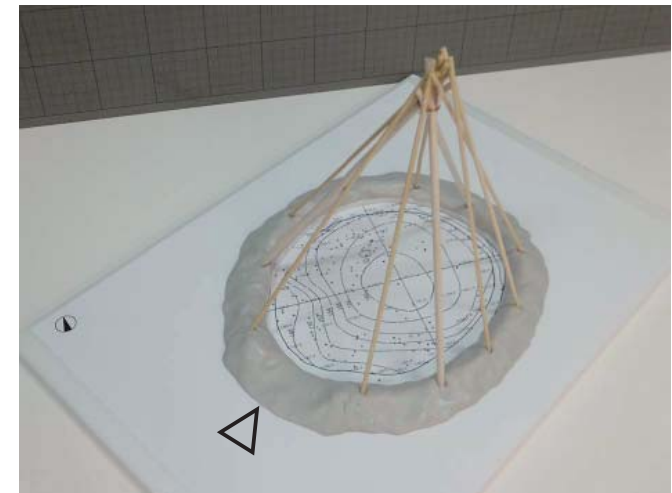


トファラル人 円錐形の小屋

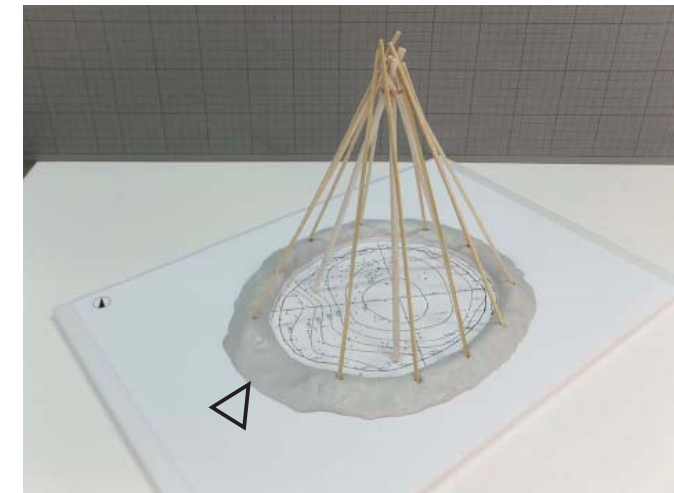
出典：『アトラスシビリ』1961年・ソ連科学アカデミー・モスクワ・レニングラード

模型による小屋組検討

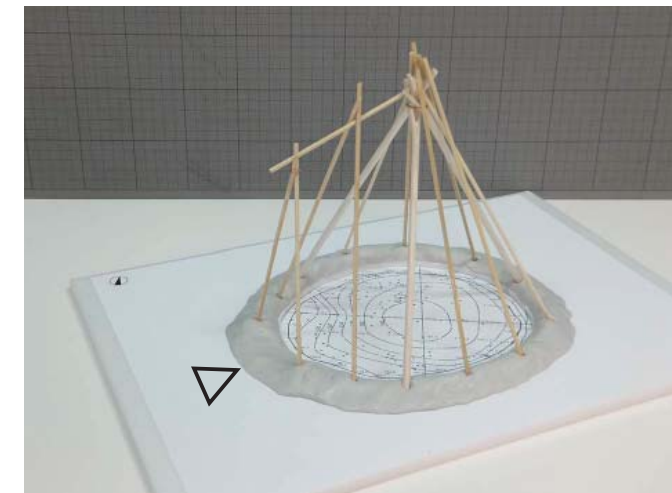
A 案



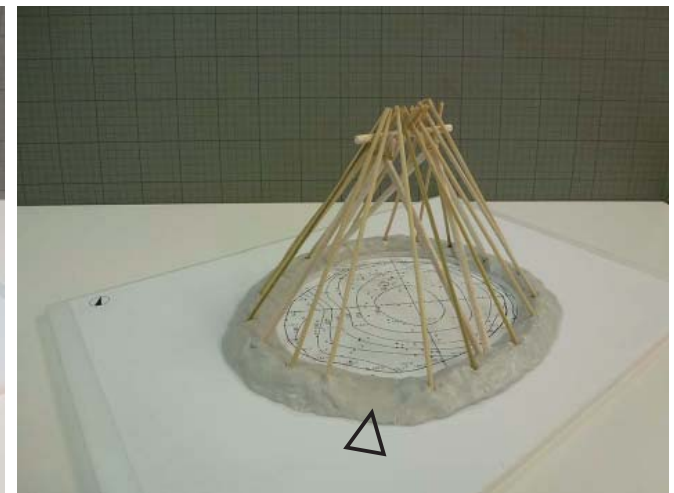
B 案



C 案

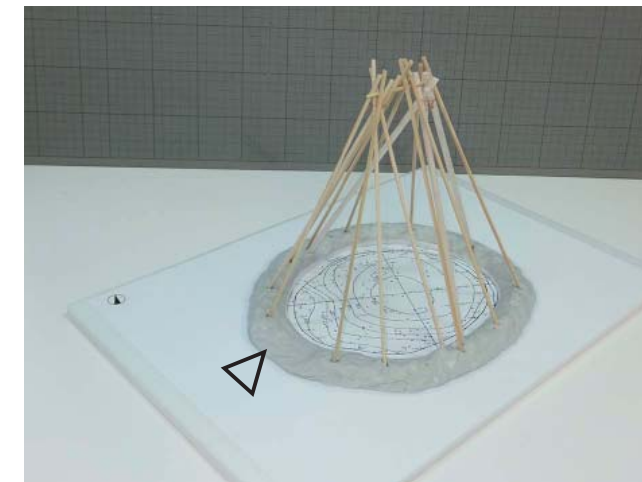


D 案

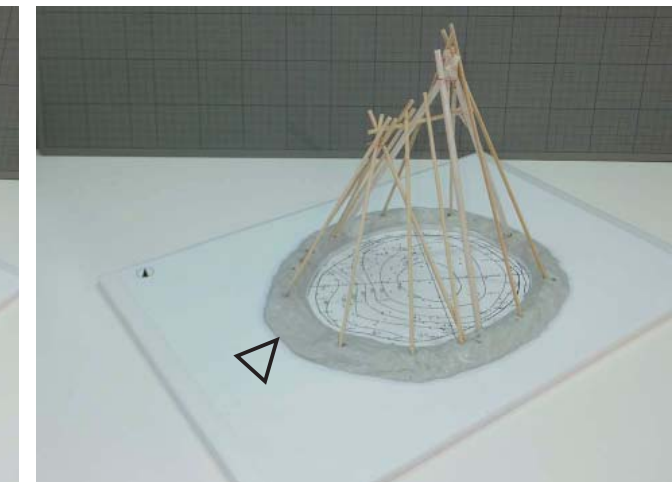


- ・C 案と D 案の間はないか
- ・門道の工夫がほしい。
- ・張り出し部分に門道用の小さな三脚をたてるのはどうか
- ・D 案の場合、入り口はどこか
  - ・必ずしも 3 脚構造にこだわる必要はない。
  - ・4 脚構造もユーラシアにひろく分布しており、門道部の復元は可能だと思われる。（浅川先生 12/9）
- ・北西からの強い季節風から、北西向きの出入り口は無理がある。
- ・群馬県東部地域では奈良・平安時代の竪穴住居は季節風の影響もあるためか 長軸方向を北東 - 南西方向に向け、カマドは東壁に設ける。
- ・時期の変遷とともに壁の中央部から南東の隅に移していく傾向がある。
- ・草創期の住居跡も長軸方向に入口を設ける場合、11 号住居跡では北東方向向き、7 号住居跡では南東向きになるのではないかと。また、端軸方向に入口を設けた場合構造上無理が生じるか。（萩谷 12/9）

E 案

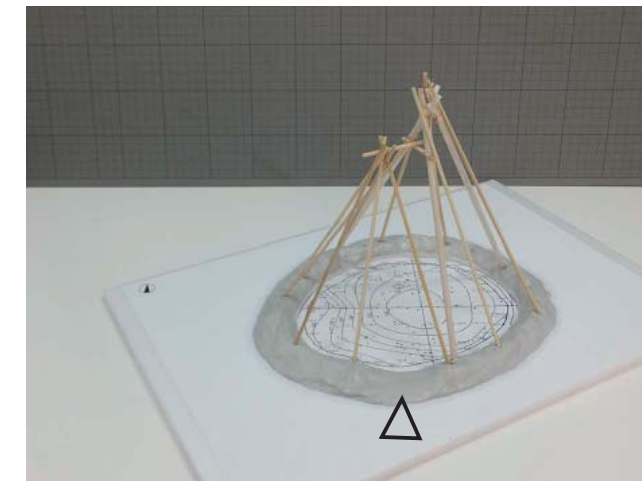


F 案



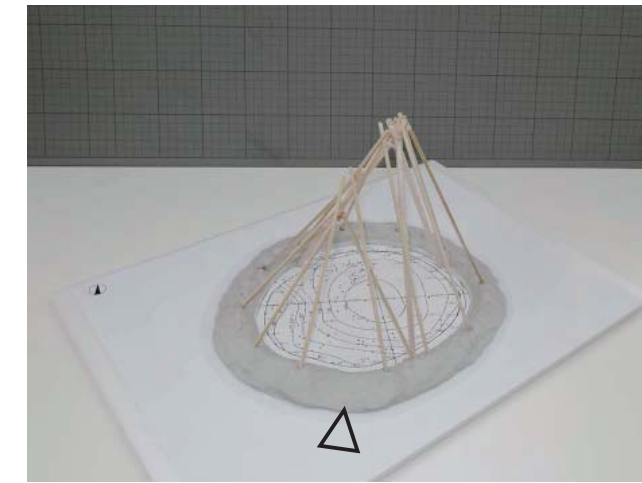
- ・F 案を軸に進めてもらいたいですが、もう少し工夫が必要である。（浅川先生 12/22）
- ・住居跡の掘り方が東向きに下がり気味なのを人の居住ではなく、人の出入りと考え、東北東向きにすることは可能か。
- ・春先の季節風が相当強く、南西向きならばともかく、西南西ではまだ住居跡内に風が吹き込むと思われる。（萩谷 12/24）

G 案



- ・垂木勾配がきつすぎる。
- ・門道の棟木に水勾配をつける。（浅川先生 12/24）

H 案



- ・1/9 浅川先生ご指導の下に作成。（立会者：萩谷・中田・加門）

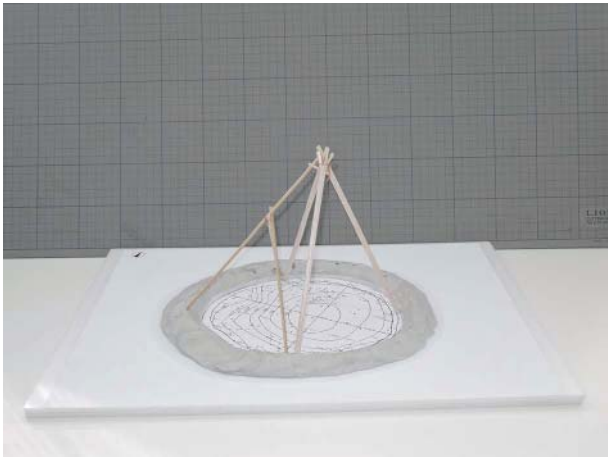
決定案（H 案）

| 記号  | 小屋組概要                                                                                                                                                                                                                | 備考                                                                                                                                                                                         |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| H 案 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 堅穴底面の平坦部分を中心に三脚を建て、緩斜面の側に低い三脚を建てる。低い三脚の 1 本は先の三脚頂部に立てかける。</li><li>・ 三脚の下端は堅穴の立上り際より建てる。尚、埋め込みはしない。</li><li>・ 周堤位置により垂木を立て掛ける。垂木は周堤盛土で安定させる。</li><li>・ 南西側を出入り口とする。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ E 案と同様に、緩斜面側を前室と考えた復元案となる。</li><li>・ 遺構面にピットは確認されていないが、埋め込みを伴わない三脚は痕跡を残さない。</li><li>・ 堅穴の掘削土を周堤に用いる。</li><li>・ 北西からの冬季季節風に対し、南西を出入り口とする。</li></ul> |

| 記号  | 小屋組概要                                                                                                                                                                                                                      | 備考                                                                                                                                                                                                                        |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| H 案 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 三脚の木材はコナラ、垂木の木材はクリ等とする。</li><li>・ 垂木上に横小舞（粗朶）を架け、樹皮を下葺きとし、その上を獣皮で覆う。</li><li>・ 樹皮の上には透湿性防水シート（ゴアテックスシート）を 2 重に敷設する。</li><li>・ 出入口は獣皮で開閉する。</li><li>・ 頂部は開放とし、雨天時には獣皮で覆う。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 三脚材の頂部は二又（枝）を利用する。</li><li>・ 結束材には蔓や樹木を裂いたものを用いる。</li><li>・ 樹皮はクルミ・カシワ・サクラ等を検討する。</li><li>・ 獣皮にはシカ・イノシシ等の当該地で比較的容易に入手できるものを検討する。</li><li>・ 獣皮外側に押さえとして丸太材を立てかけることも検討する。</li></ul> |



小屋組 上から



小屋組 南から



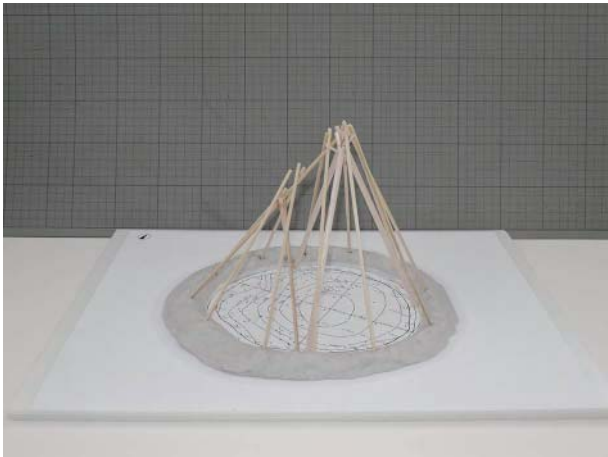
小屋組 西から



小屋組 南西から



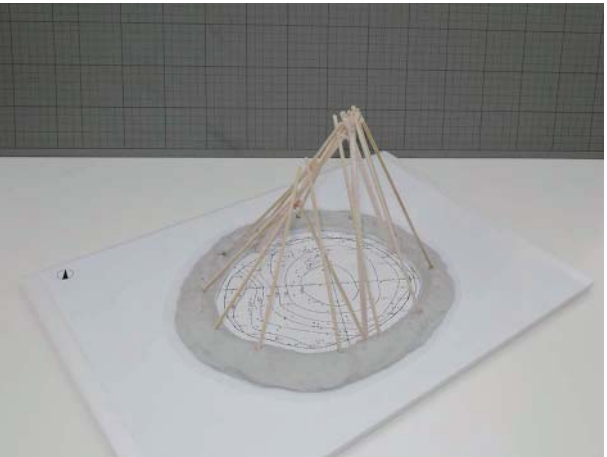
小屋組 上から



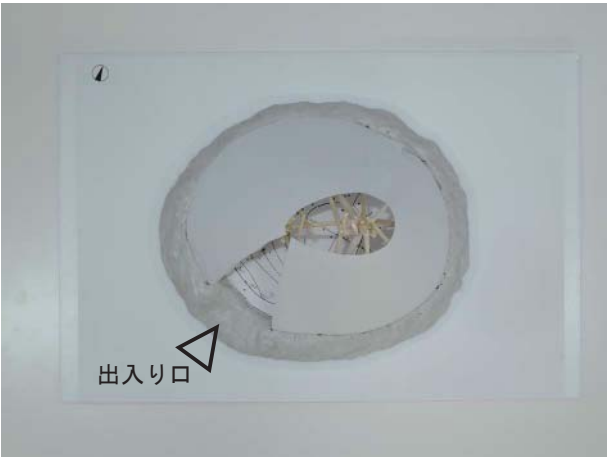
小屋組 南から



小屋組 西から



小屋組 南西から



獣皮 上から



獣皮 南から

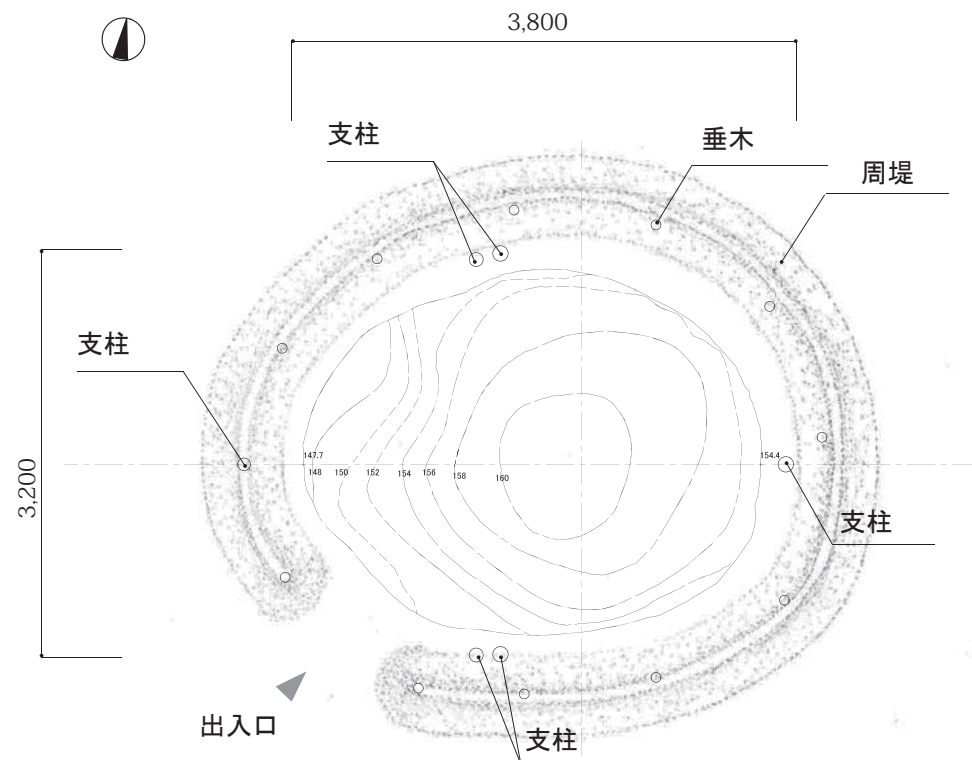


獣皮 西から



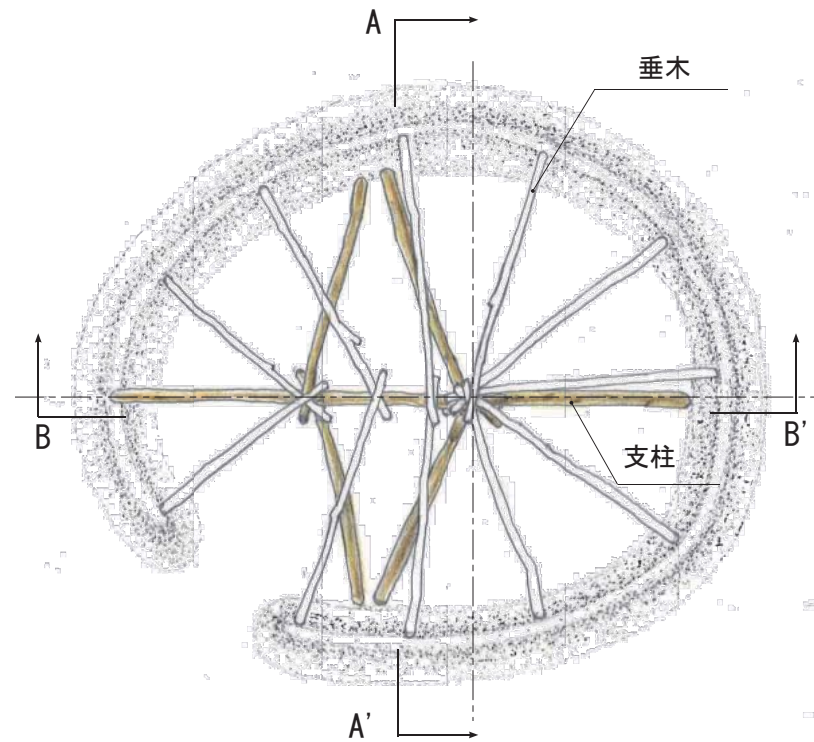
獣皮 南西から

# 11号住居跡復元展示詳細図 1



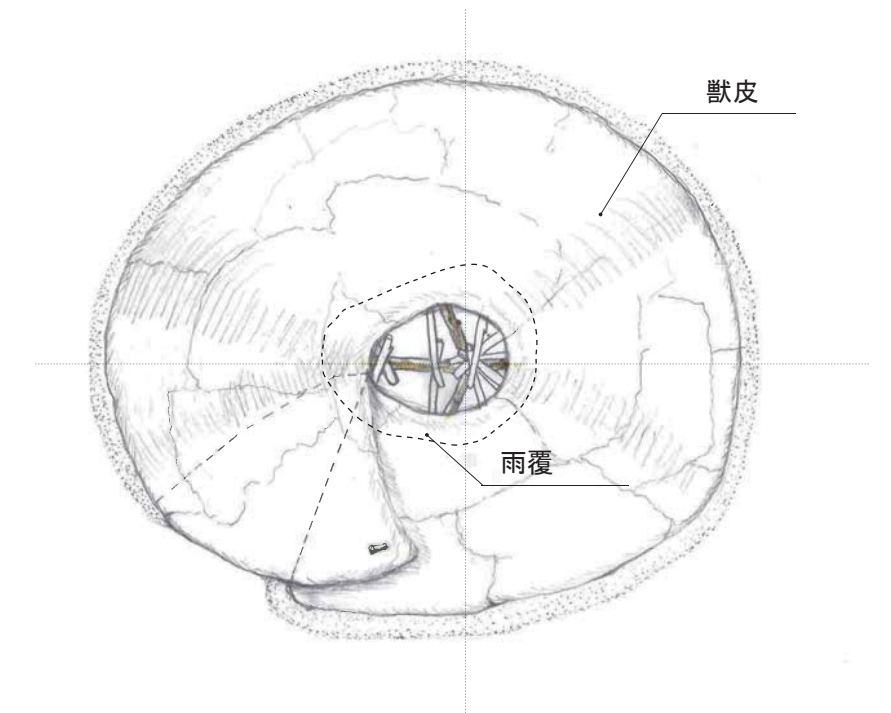
平面図

S=1/30 (A1), 1/60 (A3)



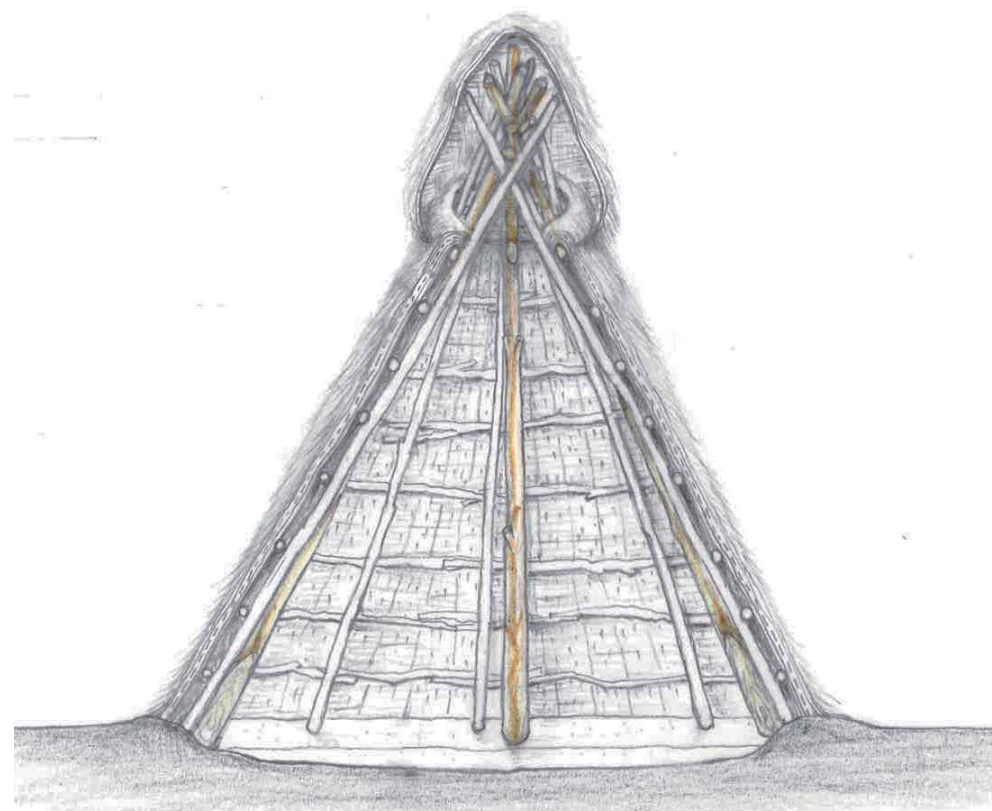
軸組平面図

S=1/30 (A1), 1/60 (A3)



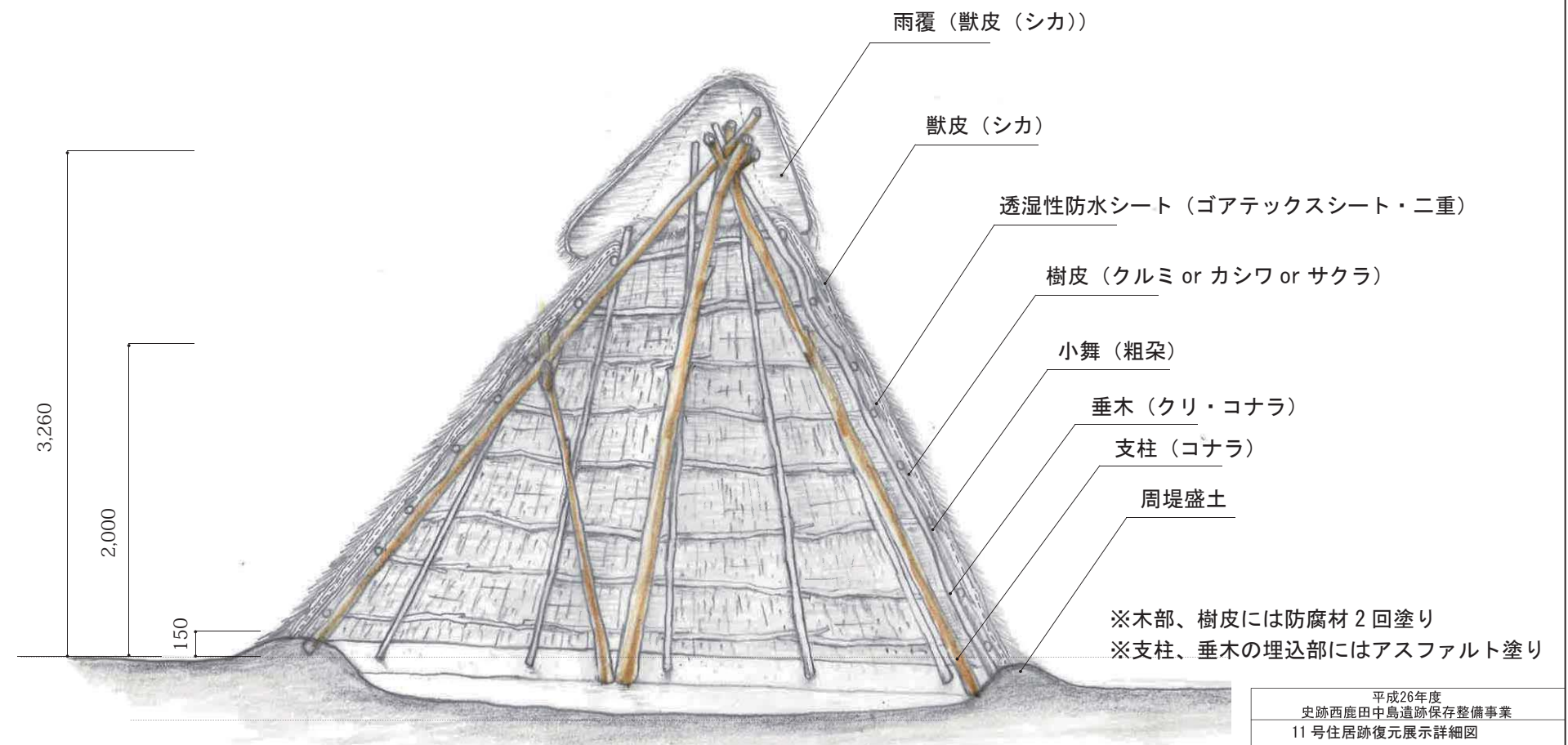
屋根伏図

S=1/30 (A1), 1/60 (A3)



A-A' 断面図

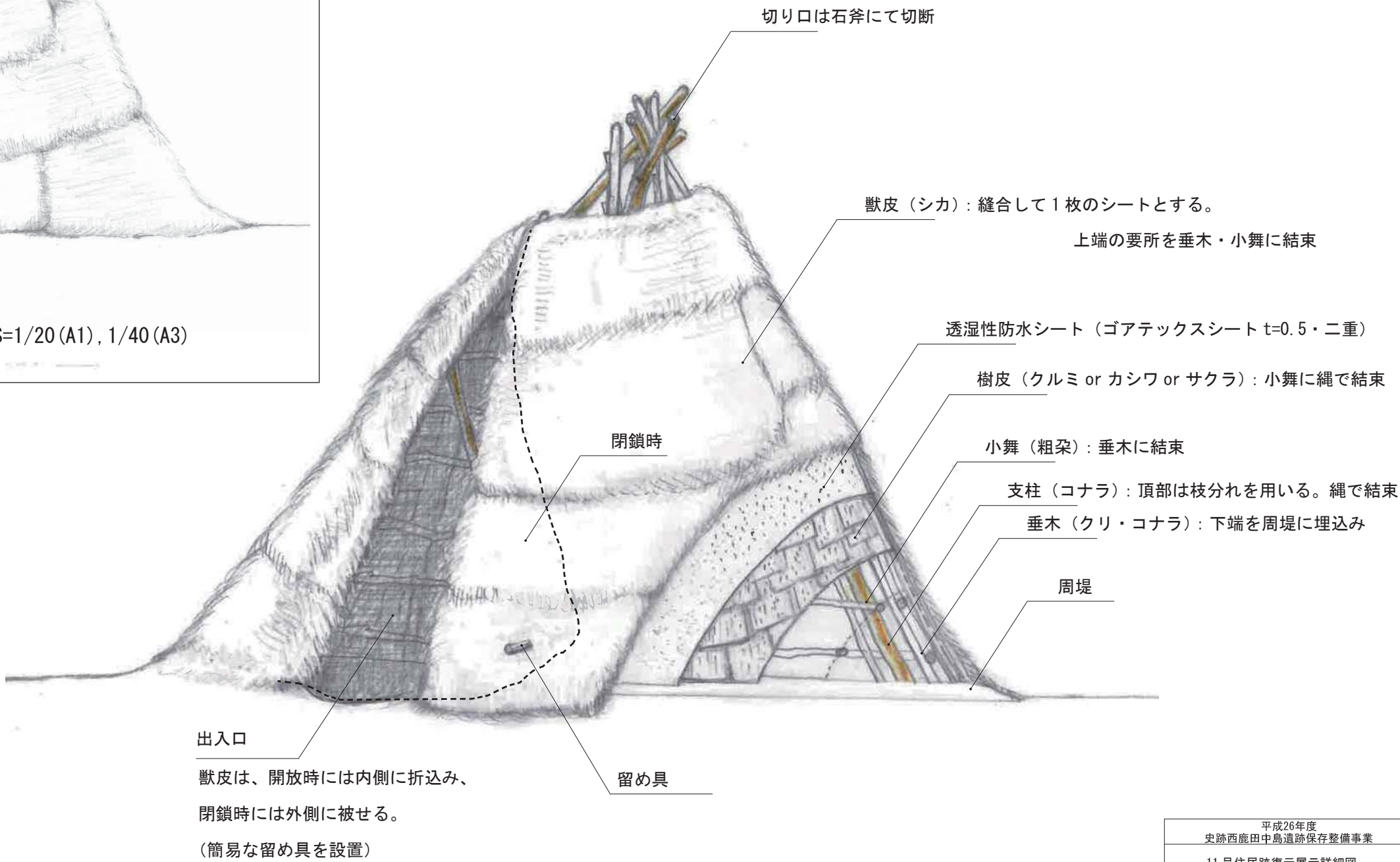
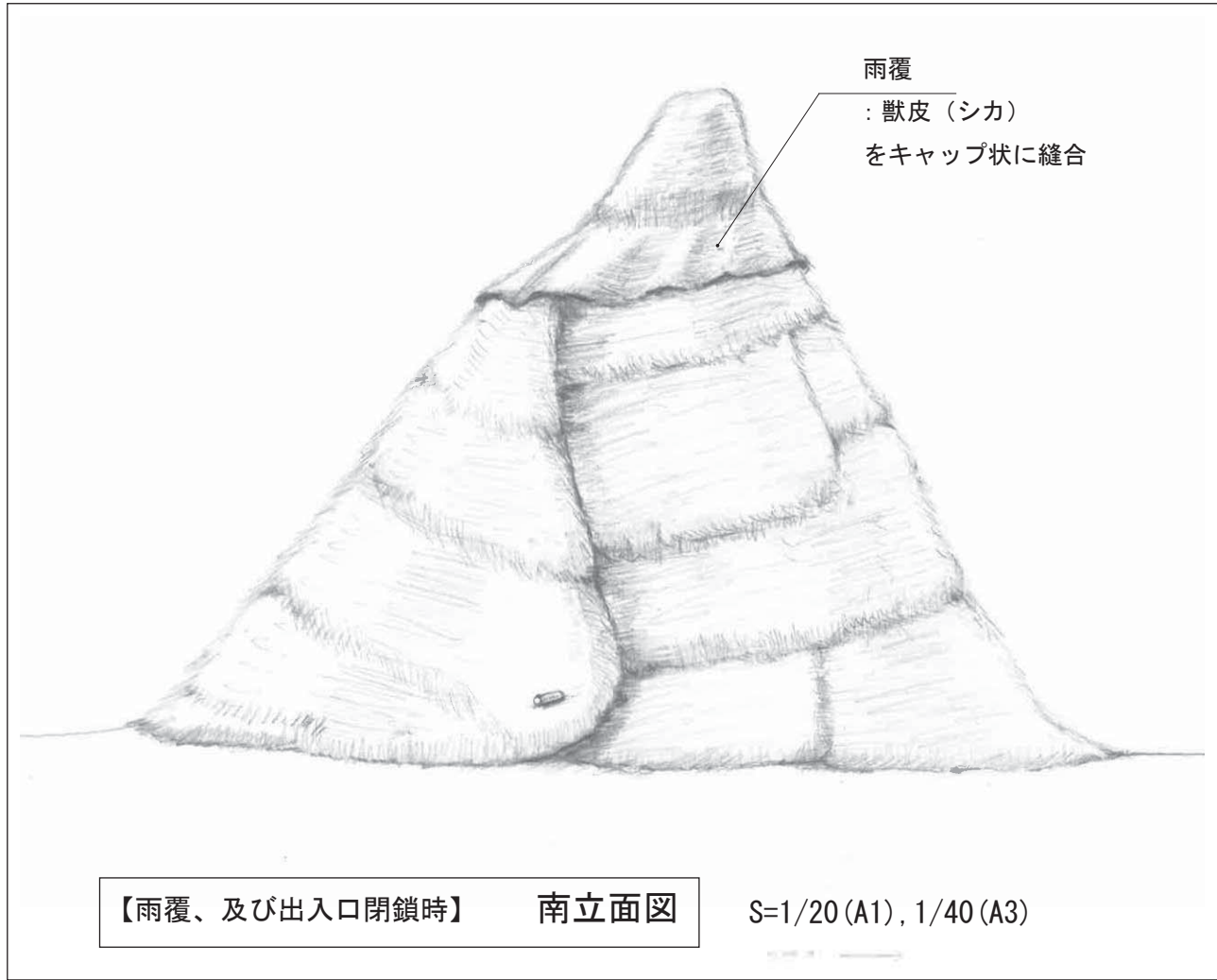
S=1/20 (A1), 1/40 (A3)



B-B' 断面図

S=1/20 (A1), 1/40 (A3)

|                                            |             |    |          |
|--------------------------------------------|-------------|----|----------|
| 平成26年度<br>史跡西鹿田中島遺跡保存整備事業<br>11号住居跡復元展示詳細図 |             |    |          |
| 縮尺                                         |             | 番号 | 8        |
|                                            |             |    | 27年 3月 日 |
| 計画機関                                       | みどり市        |    |          |
| 作業機関                                       | 有限会社ウッドサークル |    |          |

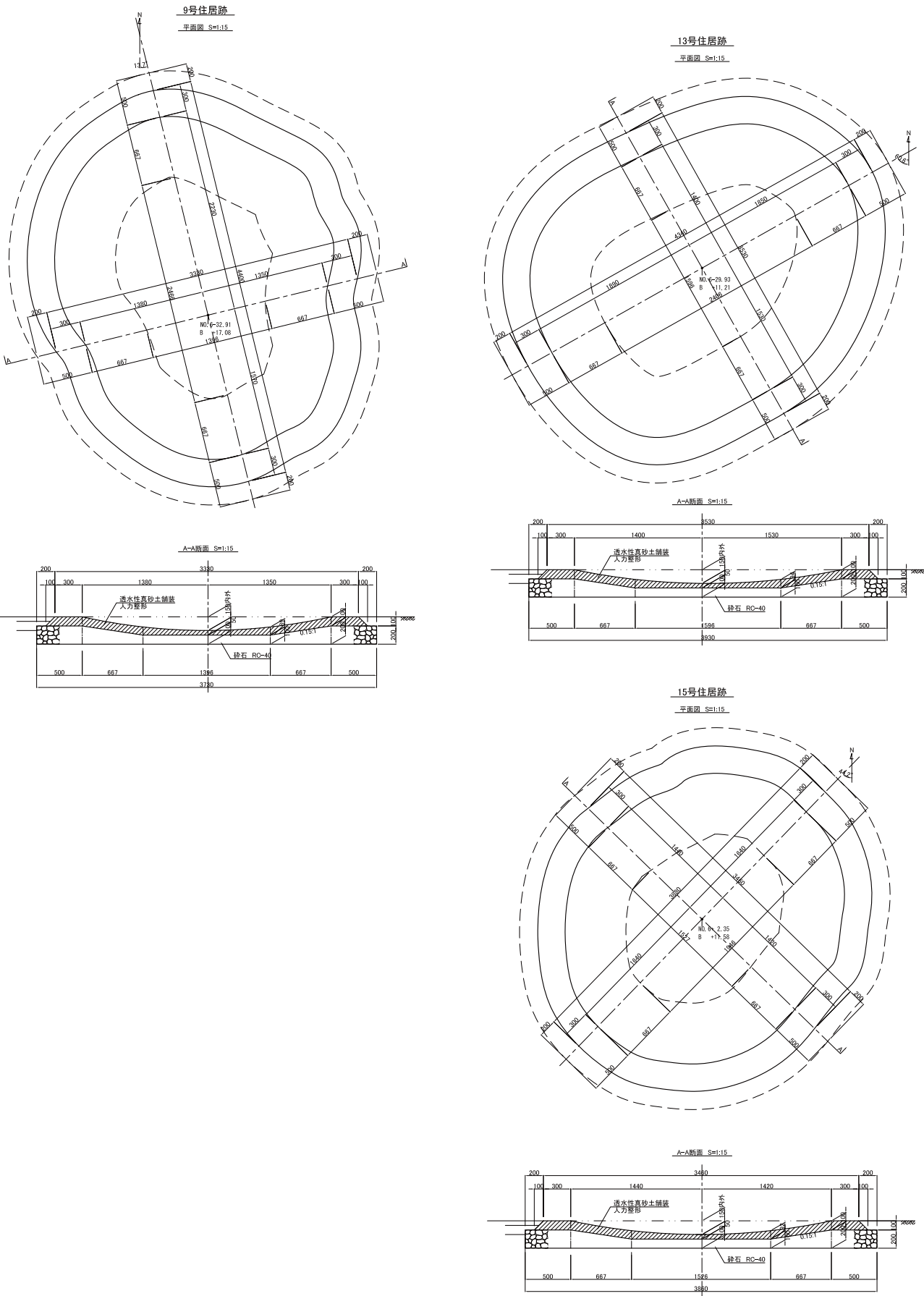


南立面図 S=1/15 (A1), 1/30 (A3)

|                           |  |             |  |
|---------------------------|--|-------------|--|
| 平成26年度<br>史跡西鹿田中島遺跡保存整備事業 |  |             |  |
| 11 号住居跡復元展示詳細図            |  |             |  |
| 縮尺                        |  | 図示          |  |
|                           |  | 番号 9        |  |
|                           |  | 27年 3月 日    |  |
| 計画機関                      |  | みどり市        |  |
| 作業機関                      |  | 有限会社ウッドサークル |  |

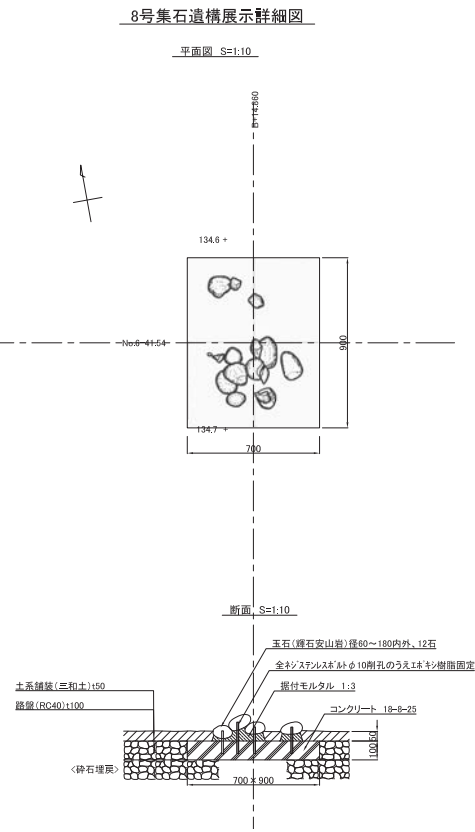
3-4-3. 竪穴住居跡の遺構表現

- ・復元展示する 11 号住居跡以外の住居跡は、痕跡として窪んだ状況を表現する。



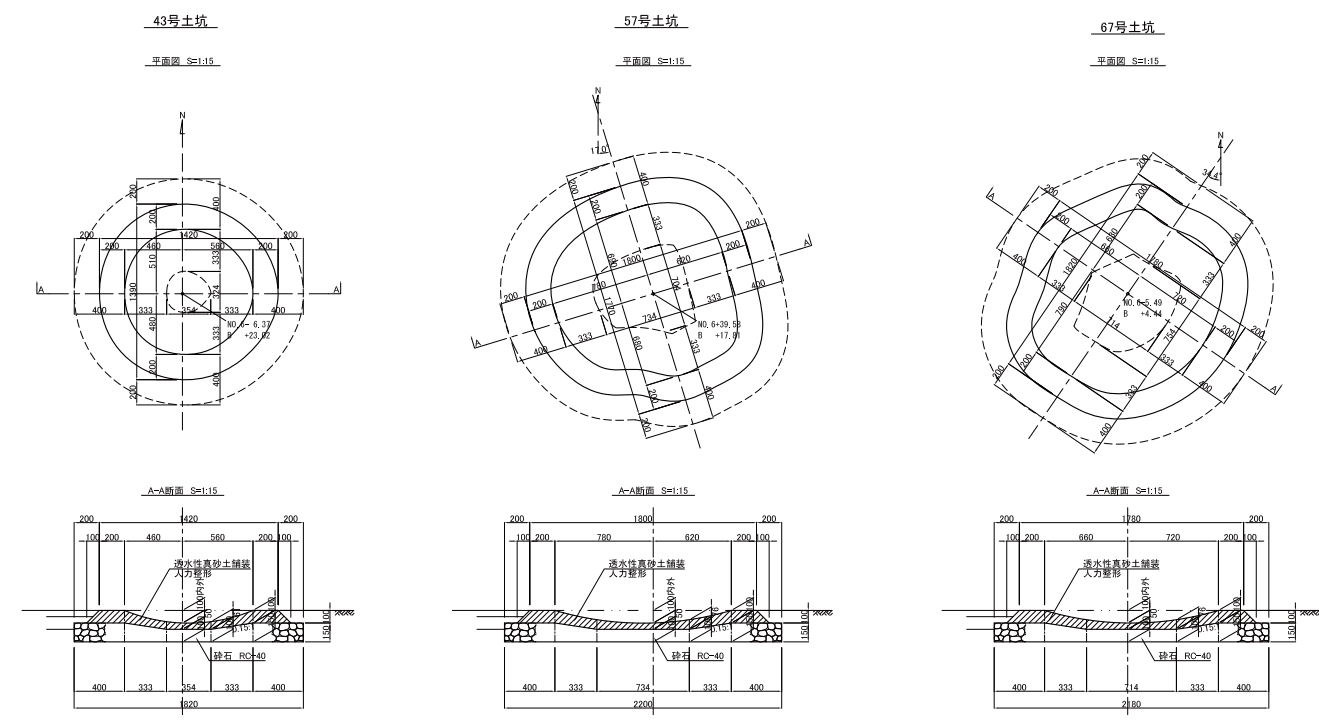
3-4-4. 8 号集石の遺構表現

- ・8 号集石遺構の図面・写真等の記録に基づいて近似した石材を用いて遺構を表現する。

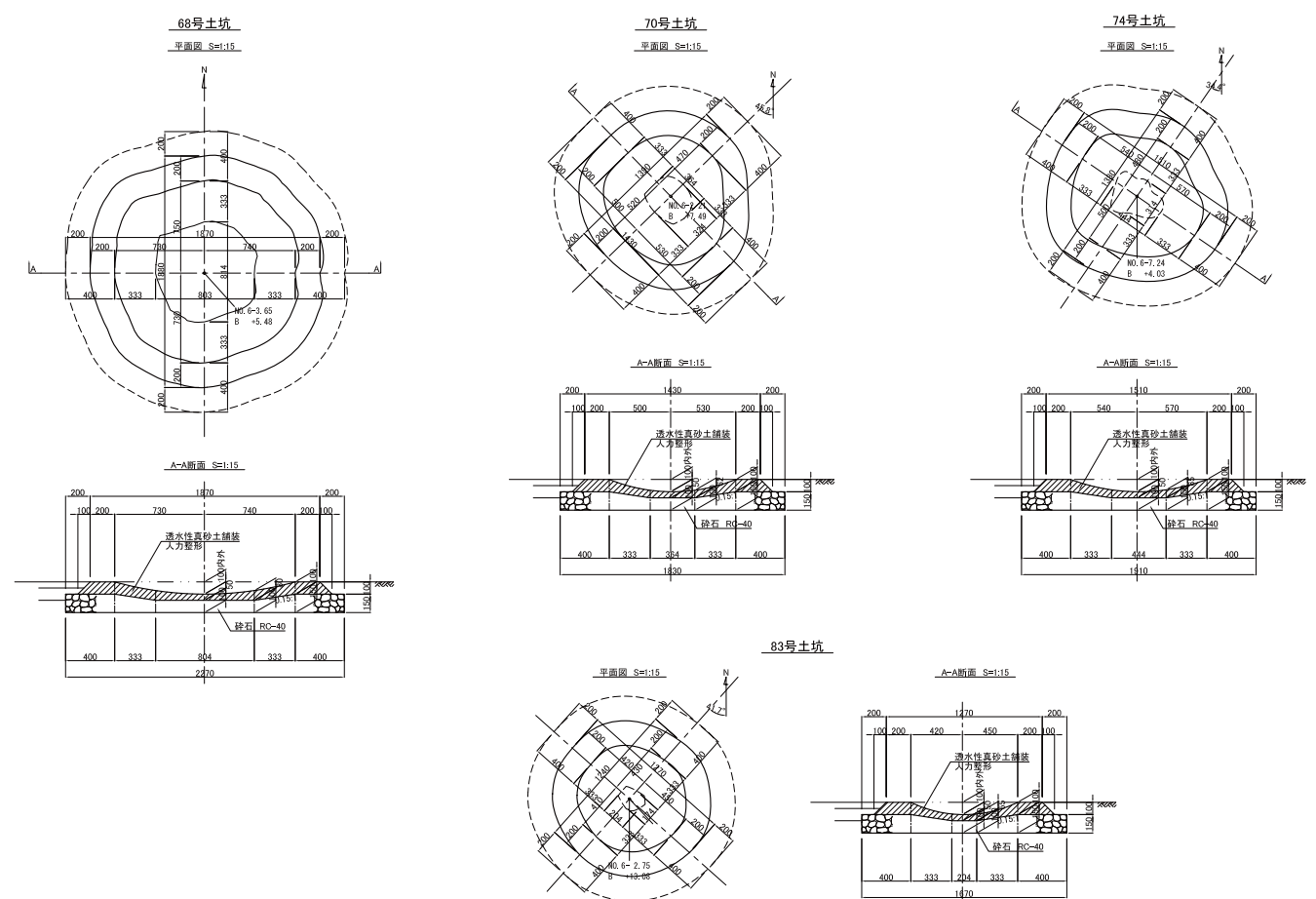
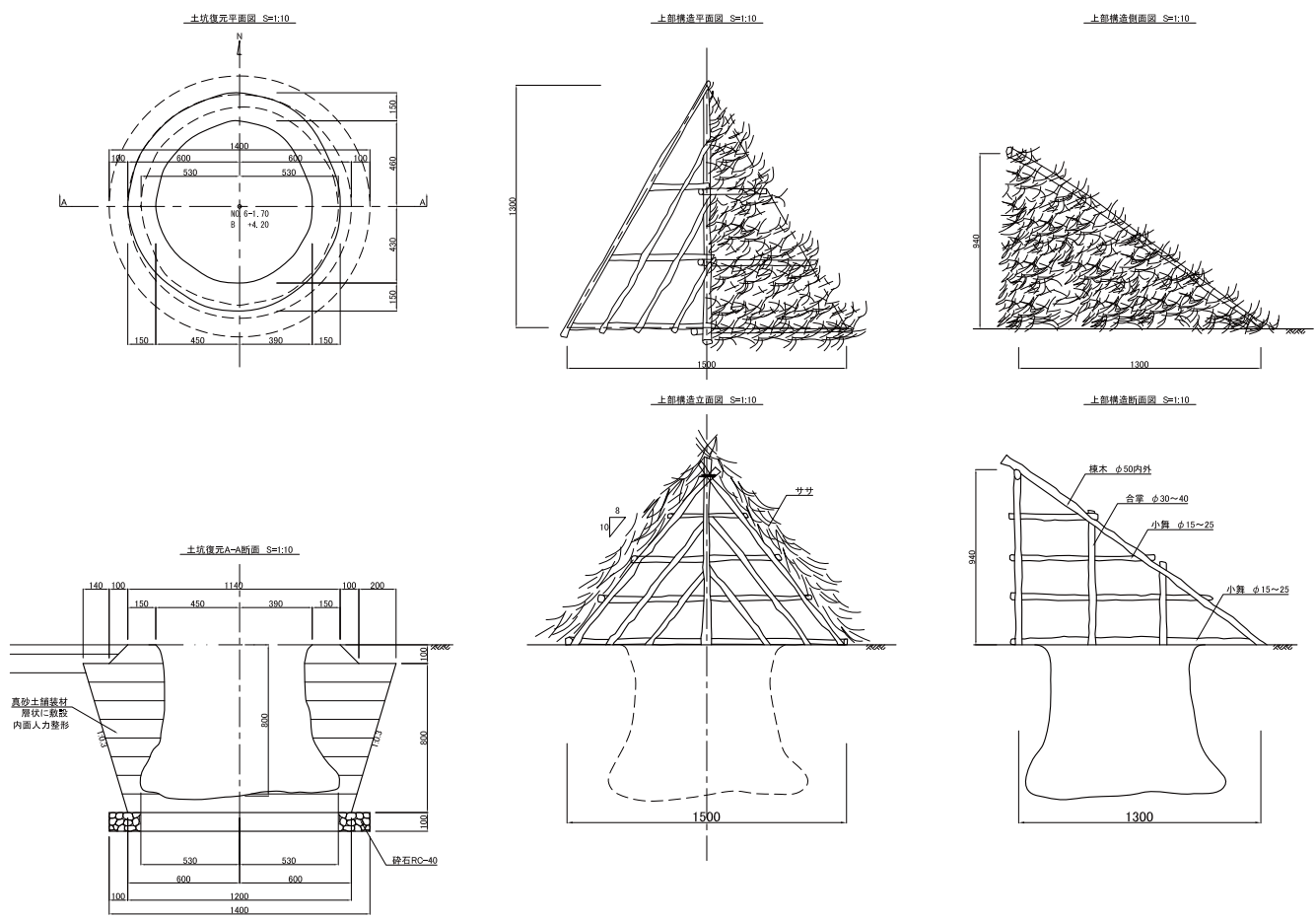


3-4-5. 土坑の遺構表現

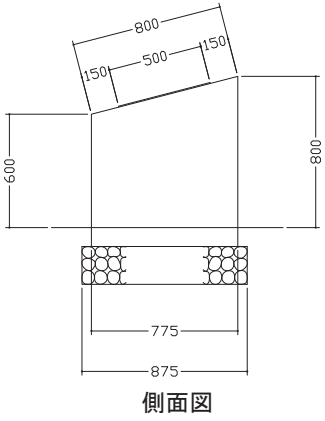
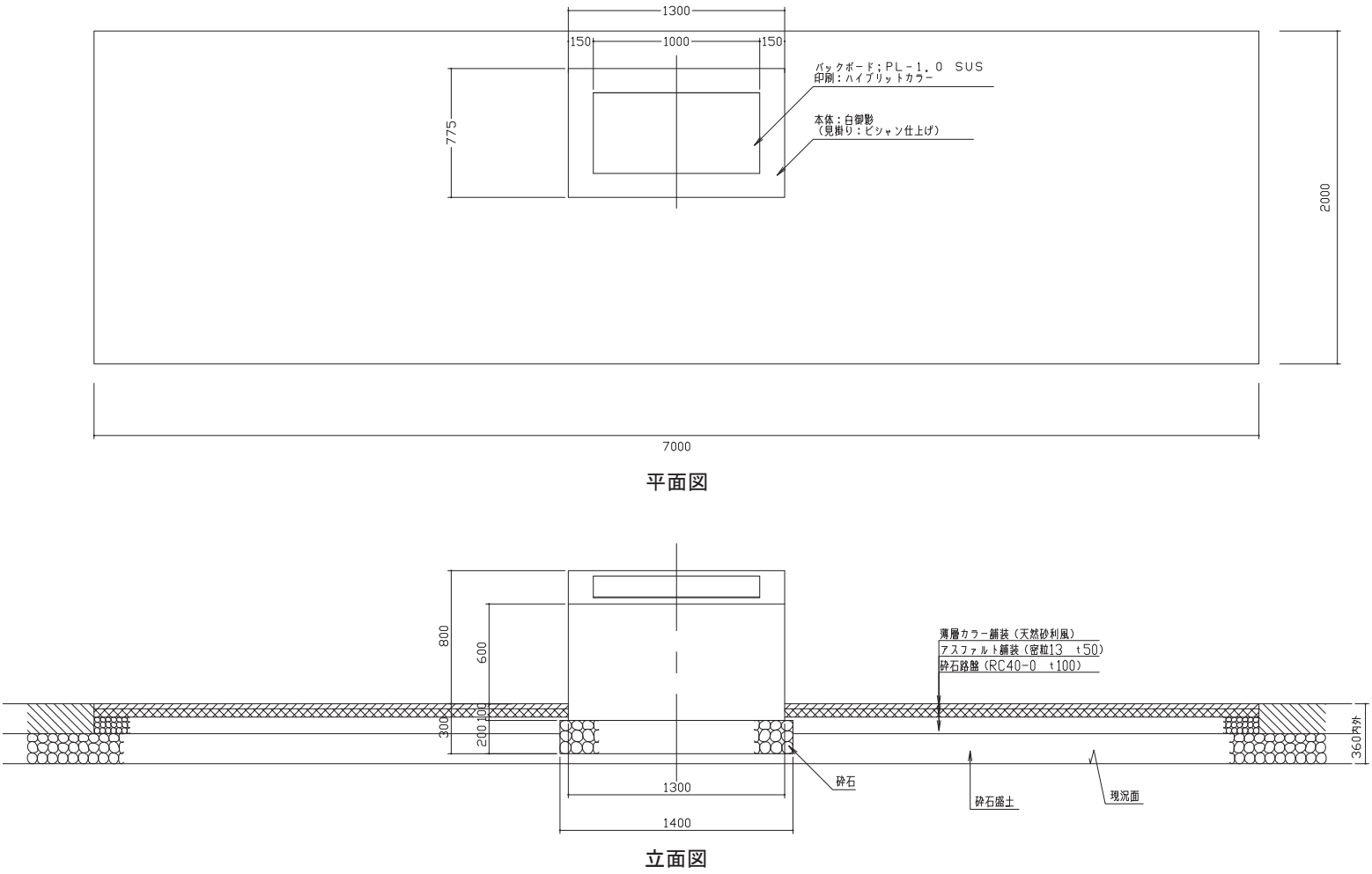
- ・袋状土坑である 75 号土坑は、その構造を復元し上部にはササを用いた覆いを設ける。  
木の実など、実際に貯蔵実験することも可能となる。
- ・他の土坑は痕跡として窪んだ状況を表示する。



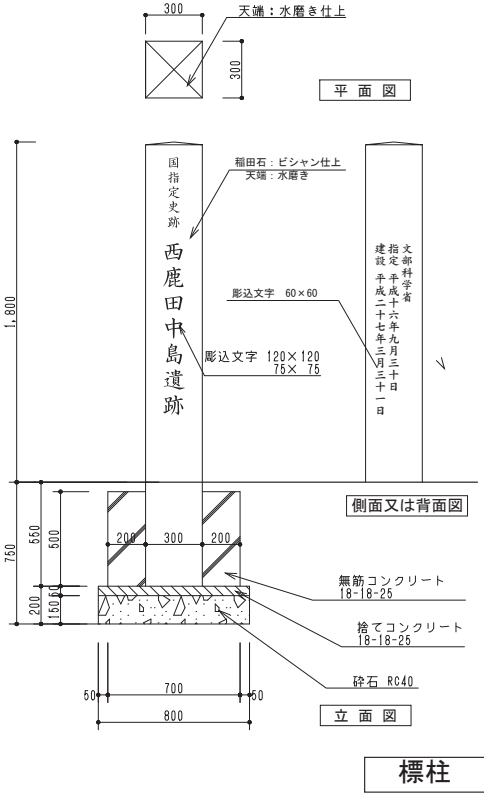
75号土坑構造展示詳細図



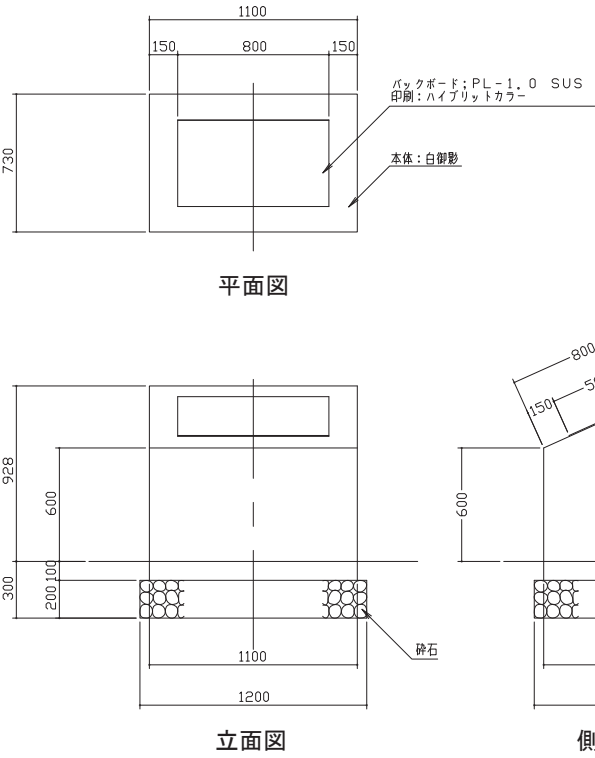
3-4-6. 解説板等設置



調査地点解説板

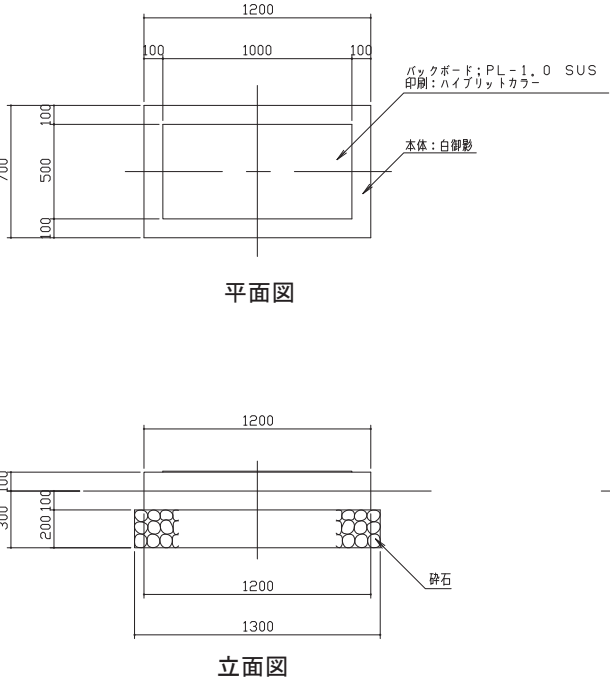


標柱



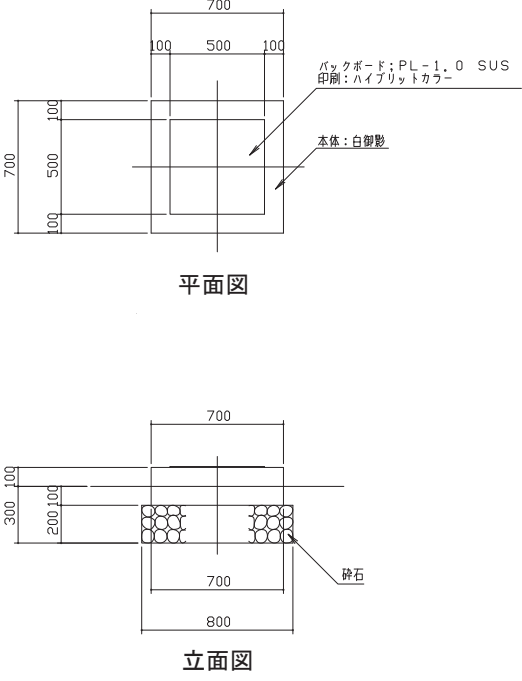
側面図

全体案内解説板



側面図

遺構解説板（大）



側面図

遺構解説板（小）